MORMON
AMERICANA

B.Y.U. Library

Call No. Mor.
M205.5
Sh93
V.1-2
1926-27

BRIGHAM YOUNG UNIVERSITY
3 1197 22483 7762

第六回会計報告

14.5.25

14年 月	日	会員氏名	摘要	収入	支出	残高
5	25	〆 繰越残高	(第5回より)			14 58
4	26	斎藤ノヨ(山)	会費	30		
〃	〃	中村照子(〃)	〃	20		
〃	〃	海沼富美子(〃)	〃	10		
〃	〃	更科美津子(〃)	〃	10		
〃	〃	飯島研一(〃)	〃	20		
〃	29	米山運二(甲)	〃	50		
〃	〃	米山盛蔵(東)	〃	50		
5	1	小沢美代子(〃)	〃	1 00		
〃	5	望月はい子(〃)	〃	30		
〃	〃	小林珪子(〃)	〃	30		
〃	21	山本義雄(〃)	〃	10		
〃	〃	向井一郎(〃)	〃	10		
〃	〃	吉水重晴(松)	〃	10		
〃	〃	中島年明(甲)	〃	10		
〃	〃	奈良有三(秋)	〃	10		
〃	〃	奈良静夫(朝)	〃	10		
〃	〃	奈良富士志(東)	〃	10		
〃	〃	河野弘忠(〃)	〃	10		
〃	24	毛利澄江(女)	〃	60		
〃	25	塚田金太郎(東)	〃	10		
4	30	製本			60	
5	2	郵税			88	
〃	13	ゴム印			1 00	
〃	20	郵税			22	

柊格

創刊号

内容

創刊について…………………………奈良生
プリント後書　十三ヶ節十四。
感想…………………………………麗子
和歌三首　　　　　　　　　　　　桂子
迷信之話（一）（研究録より）　　孫次
和歌二十首　　　　　　　　　　　孫次
編輯部及幹部より　　　　　　　　編輯者

以上

明けまして おめでたう
祈ろ存じ ます
大正十四年 一月元旦
東京市内校友会員有志
五六支 相互発達協会
会員 諸兄 諸姉
幹部

創刊に際して

奈良生

顧れば大正十三年八月七日、偉大なる愛の種を蒔れたる我が愛する宣教師諸氏の帰国せられた日より今日に至る迄末日に於ける聖徒として言ひ知れぬ悲痛な感に満ちてゐた。吾々は久遠にして価値ある相互発達会の團体を組織する機会を與へられたる事は暗より光への進路の暗示を與へられたる感がして大に喜ばしく感じます。而して吾々其に依て或る何物かを互に獲得し自他共に一大利益のあらん事を願ふ者であります。今回浅薄な私の小さな計画が発

すべき友達諸賢の力ある讃同を得て恙なく成立する運命にあった事は諸賢の相互に持たれる愛の叫に依てゞあると信じ深く感謝する次第です。さて吾々は此機を宜利用して小團体ながらも今後一層強固にして精神的に、或は実際的に夫々相互発達の実を擧げん事を切望して止みません。此後吾々は互に関係は遠きにあるとも靈的の接近を致し聖なる基督信者 イエスキリストの小さき、弟子として各々社会に其本領を忘却せることなく現社会

が將來如何に變遷するとも吾々相互に持てる愛の泉と正義の出所を以て善しく世に處することそ實に肝要なことであると信じます。願くば吾々の上に全智全能にして永遠なる神のつきざる光榮をしてより多く愛受し得る機會を數へ給はられん事を願ふものであります

聖新なる大正十四年の春を迎ふるにあたり愛する兄弟姉妹友達諸賢の將來益々健康にして繁榮へ確實なる目的に向つて猛進し行かれん事を祈ります。

聖句

我今第三度汝等に至らんと備せり。又汝を煩らはせざらんとす蓋我汝等の物を求めず唯汝等を求ればなり。それ子は親の爲に積ぶべき者にあらず親は子のために蓄ふべきものなり。我いよいよ汝等を愛すれば益汝等に愛せられず然ど喜びて汝等の靈のため財を費し身ニ盡すべし然ど或人言ん我汝等を煩せざるは何なるにまして詭計を以て汝をとりこむなりと ---------- コリント後書、十二、十四、

感想

望月麗子

教会がなくなりました私共はより集ふ機会がなくなりました。さうなった時私達は街の辻に説教する救世軍の集まりを見ても自分の集團は無いと云ふ心細さを覚えさせられる様になりました。かうした時に、今度の團結は大きな喜びでした。これを初めて私共は追々向上したいと思ひます。会の雑誌に何か寄稿したいと思ひましたが詩や小唄では知る人ぞ知るで意味を解して戴くのに困り遠い様ですから筆のすさびに思ひついたまゝを記して見ます。云はゞ事に順序なくて支離滅裂でもお許し下さい。

遠いハワイの奈知紅様ゞ奈良の霞忍様も御壮健ですか〳〵

風は冷たくても心はさわやかなクリスマスの夕をとほくの異郷に
御感慨は深い事と思ひます。御信仰の深い方々の事とて、さ
だめし兄弟姉妹の上を神に念じて下さる事で御座いませうと
感謝しております。大作教会に結ばれた兄弟姉妹は申すに
及ばず友も隣人も美しい心を以てお互に助け合ふ者で以実の好い
罪のない遊びに心を楽しますのは此上も無い喜びでこそあれ
ならない筈ですが裏面に存在するかずかずはさらばかりでもない
事を証拠だっております。私は世間見ずな自分の関心さを
痛感する次第ですがバプテスマに多摩の清流に浸った兄弟
としては余り恥かしいきたない行ひをなげかないでは居られません。

私は道徳家ぶる者でもないし、出来ない冗談にも顔をしかめる程狭量でもないつもり、又自分を反省すればいかにみにくく如何にいやしいかを知りませんが、世間一般の禮義にも欠けた交際の不愉快さを見逃す事は返って自他の為に有害だと思ひます。信証講義の月の栄光と云ふ所に真、善、美は神の御心から出たもので智識趣味のすぐれた者は矢張り神の栄に救はれると云ふ事が書かれてあったと思ひます。人間は文化の衣を以て蔽はれてあるのみで外つらは謹もいやしいものの様に或人は云ひますが文化は精神をも文化的にしなければやまないでせう。私等は高尚な趣味を

強て退化させる必要をみとめません　私達はお互に助け合ひ頼み合ふやうに努力したいと思ひます。これをキリストの御名によつて祈ります（十二月二日　完）

歌三首　　桂子

秋雨に和して歌へば我が声は
心元なくうるみて出でぬ

夢多き乙女の頃も秋なれば
落葉する音に涙するかな

妹のはれ着を縫へばしみじみと
赤き絹裏（ぎぬうら）なつかしく見える

迷信之話

北川生

断崖断崖人生到る所に断崖ありとは蘆花の自然と人生に収められたる至言である。霧深き北海を走る舟の前に突然現れ来る氷山こそ人生の絶壁である。突然然も悠然に特長を有する其の断崖こそ人生における花である帆足先生の詩の一節に「あゝ宇宙よ汝が未完成、不完全、未知数、無際限の謎物なるを思ひて我が感謝し且つ喜ぶ」ともあるが同感に堪へぬ次第である。不完全未知数なる此の乾坤は何を我等に与へるであらう。不完全なる其の一反映を迷信に取つて述べて見たい。さて迷信とは諸先諸師の所謂の通り非科学的な信仰であるが大別して比較的思念のある

物と何等の根元を有しない浮草の如き者とがある　私は前者より後者を選びたい。宗教感情には普遍畏怖の方面信頼の方面の雙方を有してゐるもので迷信も一種の宗教的感情である以上勿論前述の二方面を有してゐる　しかし他と異る点は二方面が個々の波動すべき理智の活動の中止と云ふ幕で掩れてゐる事である。云ひかへれば盲目的な宗教的感情であると云ふ事が出来ます。さて迷信の興廃の程度は其社会の思想の如何によるもので常に迷信の発生に大切な事は思想の簡素即ち精神的基礎の出来てゐないと云ふ事である　其して吾人の不完全な知識を有してゐる所から或神秘めいた不思議な事にぶつかると

我等は単純な倫據や知識を度外視した一種の複雑な心理に
誘導せられ易い者である。例へば未だ文化或は科学の発達せざり
し前に太陽を見て原始人は其有難さ偉大さにうたれて一種複雑
な現代人に察することの出来ない感情或は神念（シンネン）に支配せられ
ており太陽崇拝の如き未開の宗教感念を見た彼等は天体
も霊人と等しく食事の供給を必要と信じ其の前に食物など
献じ彼等が太陽に忠実な者であると信ぜられんため最愛
の一子を犠牲にした。旧約を見ればモーゼが一子の代りに羊を
犠牲にしたのは明に其の時代の宗教的天才を物語る物であ
る。思想への簡素とは精神的陶冶の確立して居ない事を示

すのであると云へ、強ち思想の簡素は古代に求むるに及ばない
現代は不具の時代であると誰が云ったが誠に然りである。世の
平和は不調和な世には決して求めることは出来ないのである。
中世紀においては何偏非常に非科学的頭脳を有しておった
には違ひないが兎に角知識と思想が平均の立場にあった
のび当時においては比較的不平和な事件が起きないが一度
目を今日の新聞に変せば不道徳な非科学的行為を
不愉快に見るであらう。其等は何を物語って居であらう。
他になし、思想の簡素其を物語るのである

現代人と迷信との関係は後にお話を致すことにして概念的
な方面に向ふことに致そう。思簡とは迷信発生の原因であ
るけれどもむしろ遠因とすべきで其近因となるべき物がある勿
論其細々枝葉に及ぶ事は不可能ではあるが大体の着を述
べて見たい。古来幾多の人が人生何ぞ 生死此何ぞや？ーと問へ
た事であらう。或は生に対する未練と嘲ルるであらうかしかし
云ふ人も自己満足、自己欺瞞で問を根元より去らすことは出
来なかった。只大きな声を上げ嘲り冷笑しながら舵も付かな
い櫂も持ない舟は水の流に従はねばならぬと等しく人間は世の
生死の舵櫂は有して居ない。有して居ないだけに不安がある

不安は既に時あらば迷信の姿を生む爆烈夜弾である。而して斯間における迷信は統一せられ居るのが普通である。故に其の種類は少数である。其して深刻で其に従ふ儀式或は法則が大仕掛けである例へばエヂプトの死に対する迷信は西洋史で諸兄諸姉の御存じの通り又我国埴輪の如き者がある特に佛教が我国に傳へられて以来死後に関する迷信が増した例へば中陰の如きを目付である。次に人間は健康ならんと欲する要求からして超人的な物にたよらんとする心理が迷信の導程に我等運ぶものである

殊に不治な物になると種々な非科学的の行為が相当に教養のある人に迄で起て来ることがある前述の如く死に関する物は其の、對象が絶對的である故に定説が有り其種類が無い。然し保健に関する物は非常に多種多様である。勿論思想の簡素は此種の迷信の主因では有るが都会より地方の方に多く其の姿を見る但し此の区別は土地の区別であって其処に住む人の区別でない所に面白味があろう。今都会の人で思簡な人を割合に辺鄙の所に住すと（マ）不思議に迷信家になることが有り又作敝擔を田舎より繁華な都会に住ますと不思議にかつがなくなり、再び田舎に

帰るとかつく様になることがある、其等の原因は他に例へば醫者が手近にあるとか、又比較的此の種の迷信ないだけの文明人の居る中に住むので、自然迷信めいた言葉が発しな旨とか、種々あれども、要するに其の地方の情味、自然便利が原因するのであらう。北海道石狩国空知郡音江村字神黒川に煙にけすぶつた北海成地特有の建物の門に霊魂病院と看板の揚げたる所がある、其の主人公を加納包球と云ふので其の地方で可成りの人望を得てゐる人である、其の人は看板の如く病は気からと云つて萬病を精神的に治すことを企てゞ居る人である。

[illegible]か心理か何かは知らぬが治った人も可成り有る様
である。要するに人間の有る迷信性を利用する。先ず簡単な
がら其の履歴を御覧に入れよう。其の人は時々自分が他方へ
旅行する時に必ず、代筆で自分より自分に手紙を書く様で
其の手紙は先生の聴診器でもあり魔術でもあるので呪文
は之れ丈けである。鬼子母神、八幡宮、薬師堂の縁日
する理由も前述の迷信性に基づくのである。さて序手で
あるから既知の事項かも知れないけれども書いておこう。
何時の世か知らぬがインドの国の大兜国に住でゐた千人と云ふ
多い子供を持ってゐた女の人が居た。彼女は彼女の小供たち

愛すこと非常な物で特に末子を愛していたしかし彼女は他人の血肉を食すことを好みよく他人の子の血肉を食してゐた。甚しく佛の偸盗邪婬妄語殺生飲酒の中の殺生の悪行の戒を受けて千人の子と一緒に帰依した神である。其故に罪識に人の子を助ける信験を有してゐる。（誠に獨念だがあなたから此な紙面が来たから此處で筆を置き此位は宗害にゆづることにする（不完 隨意）

御願。誠に驚入りますが奇妙な迷信を御信じの方は何卒御手数ながら奈良様方添状で御報せ下さい。

近日雑詠

孫[illegible]生

鴉だにも淋しかるらし北の秋は葉もなき高き木にとまりけり

罪多き我身思へば悲しくて祈るも涙し後ろかになし

病院の俳歌の袋ふ衣知れぬ斉藤教の医者なつかしさかな

[illegible]はとて春日へ湯[illegible]の[illegible]つまし[illegible]く

夜人オール手にして海下るオールの音をしめやかにして、

罷業ますます有りと見つれば忙しく新聞見つめてたゞに安堵思ふ

運命よあきらめまとはす人さへど悲しく去る日の思ひ出よ、

アレノくと小供さわげば空行く飛行機見るの珍しきかな、

細以ての罪九消め自由になりし我今日も朗らか我身なる

下総の黄昏の色の秋空に落葉とならむ涙一滴、

今日も又今日も日は落つ寂しみの夜を残しおき今日も又落つ

唯や知るなやみ聞て枯野をば あゆみつかれし旅せし私を、

水車回る小川の面に音高くくだける泡うらさびしくも

星あれど月なき冬の大空に湯屋の煙のしづしづとして

君知るや読みてへかれて傍し夢を はつかしの歌ろぎには

窓越しに一人読みふけ学生ぞ 隣の君が談り大声さびし

病めるにやかなしき声の木樵し時計に示れ雨滴る宵

すがすがし池面を渡る雲の影緋鯉の時に浮べるになほ

行き暮れて道行くほどに木林の間の白みて月の登るを請し

◎編輯部及幹事より

明けまして御目出度う御座います。昨年中は色々と御無礼致しましたが何卒悪しからず御許し下さい。今年こそ新しい年のあつまりを有意義なものに致し度いと思ひます。作品発表の機会は会合によって現在に至りましたが今年は誌に発表の意味も含めて作品を考へて居りますが、皆様の作品がありませんでは出来ません。会費は本年も有りますが、鉛筆ながら何か一言の感想でもかまいませんから遠慮なく御利用下さい。なほ作品を寄せて戴きたいと存じます。作品の原稿を送られたらば様に御願い致します。

（前號）

一、今度は創刊号を作る計画があります。之が為作品を御寄せ下さい。出来たら作品の前です。

二、会費は十五円ですが納めて居ない方は早く御送り下さい。本会は営利を目的とするものではないのですから割合御送り下さい。持たれかけて居る方が多くて困ります。何分出来得る限り送って下さい。

一、誌代がかかりますので新人の[illegible]して戴きます様に。

(一) 山田穣君は十二月一日近衛歩兵第三聯隊に入営

(二) 第七中隊第十一班、第大隊……しますが

(三) 栗谷合直は十一月廿日除隊……帰郷……
当時は休んで居りますが将来は……
度、……一と云へられ現在は山形市
旅館町小……四十九番地……住宿して居る系
の由

(四) 春日君は現在日曜学校を開いて居る

(五) 須貝譲太郎君は目出度く七月結婚された。

(六) 鈴木博君は一月十日山形市三十二聯隊へ入営する由 部隊は中隊……

(七) 奈良哲夫兵は、ナガスに雇って居ったが、昨年十二月七日急逝せられ……の不幸……の

指標

第二号

大正十四年二月一日発行
日本相互発達協會

内容

迷信之話（研究録より）　北川孫次
歌ふ心を求むる　山本虎雄
聖句（ルカ傳一一〇三四）　望月ルハ子
標想　奈良富士哉
旅行して
消息（中川三司氏の近況）
編輯室より　編輯室
會員の消息　同
新入會者
第二回会計報告　同

以上

迷信之話 (二)

孫次生

前号の所を概括すると迷信之意義と思想の簡素と云ふ迷信の遠因と生死の不思議及保健の希望と云ふ二つの近因についてお話をしたさて私はなほ近因に付いてお話の歩を進めて行きたい 生死の不可解と保健の希望とは前述の通りであるが他に見逃すことの出来ぬ一大原因のあることを私等は発見し得る 即ち運命の不解と云ふことである 迷信の発生は不思議と云ふ事がなくてはならぬが 決して不思議は直接の原因とならぬのである 例へば 林檎が木より落ちた事を物理学者は絶対即感情を含まない態度で其の不思

議を解かんとするしかし林檎は此の場合人生に直接密接に関係しないからかまはない、と迷信者は迷信を起さない、けれども若し林檎が人生と密接な関係を有し此が落ちる度毎に我等の生活の盛衰があるとするならば其迷信が生ずるであらう 悩は迷信への入口である 即悩は迷妄の一歩であり如何なる社会を見ても先づ行はれる迷信又迷信めいた大部分は実に其悩みを容易に脱却せしめ得るとの迷妄に基いたものであると云ふ事が出来るさて悩みの生じ易い人間界に最も神秘的なものがある 其を吾人は運命と云ふ言葉で言ひ表す 華運

余ほど不思議なものはなからう
末日聖徒基督教会の信証講義の著者タルマージ氏は斯
書に於て神の存在の証明を此の運命の不解を用ちいて
証明してゐるが(私はタルマージ氏を決して何らの意味でなく只だ実
事を実事として述べるに過ぎない)此は中世紀の哲学者
ライプニッツが宇宙論的証明で言れた事であって古より一
般の思想の簡素と不思議とで容易に信仰を起し得
た為に神の存在証明に有力なる手段であった　宇宙的
証明とと言はれるのは
總て自己が自己の原因たる時の必然的のものならざる限りは　即ち偶

然的なるものゝ存在は其以外に原因がなくてはならぬ然るに此の世界は偶然の物のみたさるゝが故に其終局原因は宇宙以外になくてはならぬ而して其原因を神なりと論ずるのである

しかしカントは因果の関係は無始無終となりと言って居るし仏教の因果関係より此を否定し得るしかし今は其のに入れない只運命の不解は前述の如き論さへも導き出したと云ふ事を知って戴きさへすればよいのである

実は自分も運命の神秘運命の不解を人間は前述の如き一理論的に推考しなかったかも知れないが何か其影にありはしないかと疑った 而して昨日迄高楼に座

し美食に厭きた人が今日路頭に妻子と共に迷い其の運命に泣く時神社に詣で、其の悲痛を和らげんと努力する様な衝動を人間は有してゐる 例へば結婚の如きも生れながら見知らぬ異性と夫婦になるがため本能の出来得ばよき者と云ふ要求が出雲神社の御札の売行きのよい原因となし浅草の平内の石像に紙の着物の年々に厚く京都西大谷の縁結びの石像が石像に見えずして紙像になる位繁昌する原因となるのだ
又承久元年源実朝が鎌倉の鶴岡八幡宮にて公暁に殺されたのも影も遠因として運命の神秘に対す

176453

る武運長久の要求があつかつてゐると見ることが出来る。
さて迷信発生の原因として思想の簡素生死の不思議保健の熱望運命の不解と四つの原因を上げた前号の初めに書いた通り此を煎詰めると恐怖と畏敬と成つてしまふ。　しかし私共は恐怖も畏敬も共の原因と存在しない迷信が世の中にある事が気がつく　今迄諸々を集た物の数は一生懸命で研究勉強すれば統一が出来ないとも云ひ得られないでもないのであるが次に述べるものは統一する事が不可能に思はれ自然此より言ふ事は余り統一が付かぬかも知れぬ　此等の迷信を私は実体の

迷信と呼びたい 其して更作の迷信ハ面白い行程と面白い調子と妙な原因より起きて社会より社会へと流れ浮び行く

一、先入性となつたもの（遺傳性と云つた方が適当かも知れぬ）

此れは自分が認識せずしてやる迷信で例へば親が非常な迷信家だと親ハ子供を養ふに迷信要素を含だ教育を引き、教育された子供ハ無我夢中に其を行ひ 而して他人が其の迷信に違つた事をすると不愉快を感ずるものである 其の例としては親の床を敷くに北向に敷くと死人の床だと云つて此る親を持つた人ハ自分が宿屋に行つて北向にされ

ると気になるその事である

与へられた紙面が盡きたから此項は次号にゆづる
投書恐入るが若し貴兄貴姉の中に気疾な迷信を
御存じなら奈良氏方孫次郎に御報せ下さい

歌ふ心を求むる

山出　とらを

□歌ふ心を失った人間はさびしい　それは調和を有してゐないからだ　一切の調和――美しきも醜きもすべてが調和した時にわたし達は歌いたい衝動にかられずにはゐられない

□わたし達は既に集ふ場所を失った　それと同時に歌

ふへき一機会を尠からず減殺されてゐる

□ わたし達は何が故に教会に集ったらうかの、
わたしは少なくともわたし丈は何が故にといふ
向ひに「調和」といふ二字で答へられる わたしは未た
説教を聞く為に教会に集ったといふ記憶を持たぬ
わたしのこの言葉に人達は或は怪訝に堪へないかも知れ
ない けれども最初の数度の集りに失望したわた
しは説教を聞く為にといふ考へを捨てゝしまはね
ばならなかった

□ 教会には救ひはない、 教会で行はれる説教では人間は

救はれない　儀式と權勢に囚はれた教会では人は救
はれない　わたし達の求むる救ひは純一且つ深刻な
のだ　わたしは神の国としての教会を否定する宏壮な
会堂を憎悪する

□ これはわたしの日頃の主張なのだ

□ 自分が完全に救はれる為に説教を聞きに教会へ集ふ
と云ふ人があるならば　わたしはその人の空しい努力を悲
しまずにはゐられない　そして「あなたはあざむかれてゐるの
だ」と　告げてやりたい

壮麗な会堂に　崇嚴にみえる儀式と傳統に

醜さを包んだ宏大な組織に　あざむかれてゐるのだ
教会には救ひはない　説教はあるであらう併し救ひはない
のだ救ひの説教はないのだ

□救ひは内在する　他からは与へられない　会堂や儀式や人間達
からは真正の救ひはない　救ひは内在する　ひそかな部屋の
うちに　美しく静かな森のうちに　救ひのいのりは聞かれる
かくて母に救ひの芽は育くむ

□わたし達は既に教会を失ってゐるけれどもわたしはわたしの
記憶の中に集りの様子をはっきり繰り返すことが出来
る　それはなつかしい故郷の絵だ　ピアノの音が或は高く或は

低くあたりの空気を揺がして流れる　いつの間にかピアノに連れて歌ひ出す集りの人達　見るとはなしに映づるキリスト、イエスの像のすべては浄められたもののすべてであった

□

わたしは教会に行くのを好んだ　しかし救ひを求むる為ではなかった　わたしは歌ひたいために歌ふ心を求める為に教会に行ったのだ　わたしはいつも集ひの中に麗はしい調和を見出してゐるのだった　わたしは一切の雑念慾念を去ることの出来たのへこの歌ひたい与に集時のみであった　会堂にある一切のものに調和を見出した

そして調和を見出すだから歌はずにはゐられなかった
歌はずにはゐられないのだ　それが教会にゆるされた
最高のものなのだ

□集ふ歩みを失ったわたしたちは歌ふ機会を尠からず減殺
された　わたしに歌ふ心を失ったさびしい人間に近づ
いてゐる様なおそれを感ずる

（附記　最初詩の形式で思ひ書き出したのですからその
おつもりでお読みをねがひたいのです）　一九三五・一・一四

聖句

汝の身の燈火は目なり　汝の目正しき時は全身明か
らんされど悪しき時は身もまた暗からん（ルカ一一・三四）

棕櫚

望月れい子

キリストのにえの血が地の上に流れて
諸国の創めと共に宗教の種子の
人々の心に芽生えたとき
星にみちびかれていとしき御子を拝した
三人の博士の心にも似て
人皆の心はエルサレムの空にあこがれた
春は羊飼ふ子が御使のうたを学いた
牧の小草も萌えるだろう
御子のふみし土の匂ひのなつかしさよと

エヂプトの熱砂に近い
エルサレムには棕梠の木が沢山に茂ってゐた
旅人はその影にいこうてどんな思ひにふけったろう
霊地の巡禮はいつかその葉を故郷へ持ち帰る事を
ならはしとした
人々は御符のやうにその葉を貴ぶのだった

花言葉
それは誰が定めたのだろう
花みづからの運命かしら

優しい花のさゝやきを聞けば
桜樹は幸ある木だった
それは「神の御むね」となってゐるから。

（一九二四、一二作）

旅行して

奈良富士哉

大正十三年は過去と云ふ深淵なツボに蔵められ遠く昔の夢の様な感じしか与へられない 其処へ新たに人々の微笑の如くに美しく飾られた大正十四年は迎へられた。私は其の未だ新しい二日目 年始挨拶旁旅行に出かけた 先ず第一に足を初めたのは久しく御無沙汰をした甲府であった 入峡する事

岳や金星中米以、豊穣両家を訪問 皆すこやかであったのはうれしかった 三日は信朴な知人に送られ 温泉地にして冬夏季共に適する 信州諏訪 避暑並勝地として知らる、木曽路を経 夜は無味の内に名古屋から 県の住地商工業の中心地である 大阪に足を入れた 時たま 以雨の未明であった 大いに中にすみ空り冷たく輝く白き 美しく廣大な天空を飾ってゐた 無味であった 私の心も此処に来てよみがへった オー!、真に偉大なる天空 吾々の心も身も斯くありたい ものと深刻に感ぜられた 在阪中は大阪の諸兄諸姉に お並ひ致しかったのであった

か、相續く消息不明にて如何とも成し得ず　其内に雲ヶ畑の谷村、奈良在住の渡辺、三好さん達をと思ひ立ったが其れすら思ふ様に行かず　同日去夜帰京するの止む無きに至った　私の旅行もかくして多感の内に新しい過去のリボンに藏められた

一九二五・一・六

消息（中川工司兄弟の事）

（原文のまゝ）

小生事（中川代）去三月（大正十三年）慶應義塾経済学（括弧は入れたもの）部を出ました　此れ諸賢の御同情と只々厚く御礼申上げます　しかし経済学部でも至って金の取り方も知らずに居ります　目下は支那の商店の東京支店でせこましい事を繰り返して居りますが　人間は相変らず數年の時と同じ様心が真面目でそれで呑気にふざけてます　小生を御存知の方は何卒御許し下さい　御待ちいたします

編輯室より

◎一般に寒さ一身にしむ二月になりました 皆様御変りありませんか 幸にして第三号の発行が出来ました 皆様の御力と感謝しております 就きまして御願い致します、本年は何卒御遠慮なさらず 論文、小品、詩歌、俳句、感想、消息、雑藝等の有益なる御投書を 東京支部へ御送付下さい、時に編輯には未だ居りませんが 白井、高木、岸本、荒井諸氏に依嘱して居りましたので 本会の生れた事を御知らせ致して置きます

本会は漸次盛大になって行く様で 現れは会員諸氏の熱心なる皆様の賜であると存じます 偏に皆様の御健勝と御発展を祈ります。

◎会員の消息（会員だけ御通信を下さい願ります）

一、山本虎雄氏は昨年十二月二十五日 クリスマス祭を自宅で

聞きましたら御信じ松阪人才にとゞまつて居る様です

二、世川様次代は商大入学の為め一意専心卒業勉強をしてゐます　成功を祈り幸運に祈りませう

三、館岡だまの姉様並藤原武夫氏から感激の御手紙を頂戴しました

四、飯島研一氏並三好さん姉様からも御手紙を戴き皆様御勝健で何よりの事は結構な事と存じます

五、豊橋常子姉様は山梨県市川大門町で教職をとられ生徒からは慈母の如くしたはれて居ります　幸福な事です。

六、奈良内田まさ代氏は相変らず今年も日曜学校を開いて居ります　昨年はクリスマスの御祝を生徒の為めにしました

◎新入会者

吉水重晴……東京府下杉並町高円寺五六五
　同下　松本市歩兵第五十聯隊第五中隊第五班へ入営中

河野弘史……東京市牛込区河田町十一番地ノ三十八号

第二回会計報告

（毎月二十五日締切）

年月	日	会員氏名	摘要	収入		支出		残額	
13-12	25		第一回決算	2	00	2	16	△	16
〃		北川禄次	紙1000枚 ケニン1本(キワ)						
14-1	3	黒澤英子	会費	1	20				
〃	9	三好たみ子	〃		60				
	〃	中川五郎	〃	2	00				
			寄 24		16				
	〃	飯島ステ一	〃		30				
	21	山本春雄	〃		10				
	〃	向井一郎	〃		10				
	〃	堀田幾太郎	〃		10				
	〃	河野弘史	〃		20				
	〃	米山運	〃		10				
	〃	米山盛藤	〃		10				
	〃	吉永重晴	〃		10				
	〃	安彦信七郎	〃		10				
	〃	安彦静夫	〃		10				
13-12	31		郵税				60		
〃	31		〃				06		
14-1	7		〃				12		

棕梠

第四号

大正十四年四月一日発行
日本相互発達協会

内容

聖書の研究　東京　奈良生
生活の深刻化に就て　山形　飯島研一
聖句
朝鮮より　朝鮮　奈良静夫
営舎便り　松本　吉水重晴
ある物語　東京　小林桂子
金言
感激　札幌　藤原武夫
棕梠の心（詩）　東京　北川孫次
新入会者
会員の消息
編輯室

以上

聖書の研究

奈良生

◎イエスの誕生と場所に就て

イエスの十二使徒中のマタイとルカの両傳を比較するにイエスの両親であるジョセフとマリアの家に就て一致してゐない様に思はれるしかしイエスがユダヤのベテレヘムで御生れなされた事に就ては一致してゐるのである（ルカ二章四節、マタイ二章一節参照） 両使徒の相違は其処に起因してゐるルカ傳に於てはナザレはマリアの家であった事は明白でありマリアはジョセフと共に戸籍調の命があった為ベテレヘムに上り寺院に登載後直ちに引返へしたのであった マタイ傳に於てはイエスが誕生なされてから両親は神の御啓示

によってベテレヘムからエヂプトに避難し後イスラヘルの地に帰へり而してガリラヤの小なるナザレに居住したのである　故にマタイ傳にてはベテレヘムはマリアの元の家であると考へられ　ルカ傳によればナザレがジョセフとマリアの家であると思はれた事は観察上の相違であらう予言者ミカヘル(五章二節(旧約)ヨハネ七章四二節参照)の予言を思へばユダヤ人は救主がベテレヘムから来るであらうと予期してゐたとすれば實際故郷はベテレヘムであった事の観察を免がれぬのである

未完

(聖書を研究する上に幾分なりとも参考となれば幸甚と思ふ)

生活の深刻化に就て

飯島研一

内的生活の深刻化といふことは畢竟思索の生活の程度を漸次深めて行くことであるといひ得る然るに人間は呱々の声を挙げるや直ちに思索の生活に入るのではない人も知る如く生誕当時には無字の白紙(*tabula rasa*)の状態にあるのであるが身体の成長と共に精神も亦発育するのであつてこの精神の発育する過程が思索の世界に導き入れられる過渡時代なのである　幼児の身体が少年時代青年時代を経て壮年時代老年時代に達する様に其思索の過程なるものも年と共に少年時代青年時代の思想から壮年時代老年時代の思想へと変遷して年と共に成熟する経過を辿

り行くのである而して此の思索の根底となる要素は色々あらうが其重なるものは其人の生活過程と共に築かれ行く体験の生活である

体験とは總ての現象をあるがまゝに我々の生活に織り込むことである其の経験した真実の事相は認識の基調となるのである体験は如実に経験する事をいふのであるが就中人間苦を身自ら経験するといふことは恐らく生活の深刻化には最も役立つものであるといつても過言ではあるまい「人間苦まなければ真の人間味は出て来ない」と説く古人の言葉はどれ程價値あるものか分らぬにしても坦々たる平野を歩むが如く容易に人生を送り来つた者よりは種々なる

苦酸をなめつゝ波荒き人生を泳ぎ来た人間味があることは恐らく真に近いことであらう其風貌に接して相語るときいひ知れぬ暖い彼の心の琴線に觸れ奥深い彼の心に惹きつけられ行くのは彼の苦しみを通して得た人間味のために動かさるゝのである生活の深刻化はより多くの人間味を貯ふることであるされど苦しんだ人間が必ずしも皆暖い心の持主とはいへない過去の生活に於て苦しみが多かりしが故に遂に冷酷残忍な性質に変るものもあるこれは與へられた苦しみを天の試練と考へる見解とは異り苦しみを忍従し得ず天の無情として怨嘆した結果による天への報復とする見解から起るのである　人生は楽しいこと

よりは苦しいことが多いと見るのは一般的の観察である所謂この世は苦界であるといふ観念であり人生に対して第一義的諦観をもつ思想である故に身を以て人間苦に直面して之を体験する事は生活内容の深刻化への第一歩である而して人間苦は人間愛を生まなければ真の意義を齎さないことに我々は病床に呻吟する肉身に繋がる一人の人間を持つとする時我々は力の限り看護するを惜しまないそれにも拘はらず不幸彼の命は絶えてしまったとする彼の病から死に至るまでの間に受ける我々の痛々しい体験は殆んど何物を以ても譬へることは出来ない何といふ大きな精神的犠牲がこの体験の中に含まれて居ることであら

ることの体験はそうして其後永久に我々を意識的に又は無意識的に支配し続けるのである 即ち我々は其後我々の環境に於てゞはなく全く路傍の人々の病気や死に対してすら限りなき同情の涙を濺ぐに至るのである即ち人間は苦しむことによって普遍的愛を知るに至る 上述するところを今約言するならば 生活内容は思索によって深められ行くのであるがその思索の根底となるものは体験である 就中人間苦を体験することによる人間愛の発生は特に幾多の生活を潤し浄化し深めて行くと謂ふことである。

終

聖句

オホヨソ世ニアルモノ、即チ肉ノ慾、眼ノ慾、所有ノ誇ナドハ御父ヨリ出ヅルニアラズ、世ヨリ出ヅルナリ 世ト世ノ慾トハ過ギ往ク 然レド神ノ御意ヲオコナフ者ハ永遠ニ存ルナリ（ヨハネ一書 二章十六）

朝鮮より（二）

奈良靜夫

◇朝鮮の生活習慣思想文化の中に日本人のそれらがそのまゝ原始的状態をもつて遺されてゐるのを私は見た吾国の古い了究の生活が朝鮮ではいまも何等の変化なしに保存されてゐる姿を見た

春すぎて夏きにけらし白布の　衣ほすてふ天のかく山

百人一首の中にある持統天皇の歌の情景がそのまゝ今日朝鮮のいたるところの山野に見ることが出来る吾々日本人の祖先もその昔は今の朝鮮人とおなじく白妙の衣を着てゐたものであらう大和の香久山では初夏となればそれらの洗濯ものゝ白衣をほしたものであらう朝

鮮は今でもいたるところにその香久山がある

◇京では八瀬の大原女が頭にものを乗せてあるくのであるくのであるがそれは王城の地である京都と何かの関係があるものと考へられてゐたが朝鮮の婦人はすべて頭にものを載せて行くのである大きな水瓶になみ〳〵と水を湛えて行くのや一寸とした小荷物を頭にのせてゆくのやそれは大原女と少しも変りがない八瀬の風俗は今日の朝鮮婦人の風俗によく似てゐる私は古い日本のすがたを朝鮮へ来て発見したような気がする

◇「長袖よく舞ふ」といふ言葉は朝鮮へ来てその妓生の舞踊を見て始めてその真実を知ることが出来る日本の舞踊は

手おどりであり首のおどりであつて「長袖よく舞ふ」のでないしかるに朝鮮の妓生は特別に舞踊に用ゐるために筒袖の長い袖をつけるのであるあの長袖は大陸地方の寒さを防ぐための保温の必要から自然と発達したものであらう支那人の筒袖は今でもずつと手首を蔽ふて余りあるだけに長い妓生の舞踊用の長袖は恐らく北方支那風俗の移植であらう

◇朝鮮語を未だよく知らない私には何とも云はれぬけれども日本と朝鮮との間には矢はり言葉の上に一脈の連鎖があるようであるその他風俗建築美術のすべてを通じて日本と朝鮮との間には一脈の温かい呼吸が通ふて

てゐる様に思ふそれを明らかにすることは内鮮の融和を増進せしめることである

私はこの意味で新しい朝鮮よりも古い朝鮮により多くの興味をひかれてゐるそしてそこに尊敬すべき朝鮮を発見したいと心がけてゐる　私は朝鮮の藝術の偉大さを信ずるそれは李王家の博物館と總督府の博物館とを一見しただけでも半島の藝術文化の偉大なるものを語るであらう。

終

営舎便り

吉水重晴

今日も日が暮れて楽しい夜が来た営内生活で嬉しく楽しいのは此の夜と外出手紙を受取った時です夜は仕事も少な

いし気分が落付いて手紙を書くには一番よい時です酒保に行くのも此時煙草を吸ふのも此時です　一昨日の行軍は大町街道を行って梓橋を渡り左折して梓村から梓橋を還き野麦の道を通って松本へ帰る行程六里初めての行軍なので随分愉快でした飯盒の飯焚きも面白く出来そこないの飯に奈良漬「ラッキョー」などのおかずに舌鼓を打ちました日々の生活も苦痛が薄らぎ斯うして段々と面白くなって来ますもう我々お玉杓子も足が生えて来て一人前の蛙になりかけて来たので二年兵も余りがみ〳〵言ひませぬその代り日々の演習も目前に迫った検閲のために愈々激烈になって来ましたので御無沙汰をする事でせう　（通信の一部より）

ある物語

小林桂子

美しいロマンスの映画のストーリー　甘い眩惑を感じながら
外へ出た私は　どうしても取り去る事の出来ない
深いく　印象を受けた
文化果つるところ　物質文明の力及ばぬところ
そこには美しい恋の芽が　はぐまれて居る
白人の娘と若き酋長の恋　文化の衣をぬぎすてた
純な原始的の恋　それには人種の差別も
宗教の異ひもなかった　若き酋長の心から信じてゐる神は
うつくしい白人の娘であった
ある夜恋にもえた二人が　嵐をついて遠くのがれ様とした時

ゆくりなくもかいま見た黒人の生活に　白人の娘の心には
人種の相違が目覚めて来た　やがて二人の恋には
悲しい破綻が来た
生命を賭しての恋に破れた若き酋長は
わだつみの海深くひろい集めて　結婚の祝には贈らうと
かつては約した真珠の玉を　眠つてゐる娘の掌にのせて
美しき君よ永久に安眠と　水泳の手練をほこる
かの勇者は　つたかづらを腕にからめて
哀れや底深い滝壷に命を沈めた　未完

金言　汝の事業に忠実なれ之れ既に栄誉なり。

感激

藤原武夫

私は宣教師が帰国されてから何等かの機関によって、私達信者一同の信仰が尚深くなる事を常に願って居ったものであります

棕櫚！　其の中の記事を読んで喜びと涙でどんなに感激したでせう　私は救はれてから先生方並に多くの兄姉によって指導され楽しく暮して居りました事が棕櫚によって追懐せずには居られませんでした　私は是非とも棕櫚を通して皆さんと語りたいと思います

（通信の一節より　奈良生）

棕梠の心（詩）

北川孫次

聖ーき御声に我は聞く
此木棕梠の木 此木こそ
中世の頃、聖き一地に参りし人を
憩いさせさてはサラセン蛮人の
手より聖き守りたり

英独佛の人々の 聖地に
齎しゝるしこそ
此木 棕梠の木此木なり

いざ友よ立ち天国の
しるしを取りて キリストの
御旨に そはん 我こそは。

新入会者

齊藤
中村照子 } 山形市の方ですが住所は追って御通知申上ます
海沼富美子

木村昌治良　大阪市西区境川町一三〇

奈良省三　秋田縣鹿角郡花輪町御組町六七

会員の消息

米山連二氏　同氏令嬢は二月二十六日目出度く華燭の典を挙げられました　御祝申上ます

奈良省三氏（号鹿仙）日本画家にして今回三月上野に於て開催された六十二回独立絵画協会主催展覧会へ出品した同氏は同人会より優秀作家として推奨されました

編輯室

三月は何やかと種々新らしい事にあたり其の多忙御察し下さい　珍らしくも　大阪の信者　木村昌治良兄弟上京の節訪問下され（三月二十八日）快談数合　大阪の兄弟姉妹の皆様の各れも無事であるとの動静の一端を知り実にうれしく思ひました　亦商用の為　上京された　兵庫西宮の谷村兄弟と東京駅（三月九日）にて逢ひ　雑談後　再会を約して心よく御別れ致しました　以前の飯島兄弟は本会に力を添へ　三名も本会の推薦をし実に感謝に堪へません　月日の進むに従ひ本会も隆盛になって参ります　尚一層愛する諸兄弟姉妹の　真心ある御援助を御願ひ申上ます　最後に皆様の健康を祈ります

（奈良生）

棕梠

第五号

大正十四年五月一日発行
日本相互発達協会

内容

聖書の研究（二）
断想
ある物語（二）
聖句
迷へる人々
私の希望
榕樹
櫻草
入会者
会員の消息
編輯室

東京 奈良 生
朝鮮 奈良静夫
東京 小林桂子
山形 飯島研一
札幌 藤原武夫
東京 北川孫次
東京 望月れい子

以上

聖書の研究（二）

奈良生

イエス降誕の年代に就いて

イエス降誕の年代に就いては歴史に於ては西紀元四年前
であるとしるされて居るがそれが確しかであるか否かは
研究すべき事である其の材料としては次の如きである
一、イエスはヘロデ王の死せざる以前に降誕せられた事
それでヘロデ王はローマの七五〇年の過越（すぎこし）の節筵（ゆはひ）の少
し前に死なれたと言はれて居る　然しながら聖書には
イエスの降誕された時とヘロデ王の死なれた時との間
が如何程の年月を経て居るかは明かに示してはない
二、基督ウイスは幼きイエスの為に供物を持つて東方の賢者

三人が来た時はイエスは生れて一年後の事で、ヘロデ王の死なれし時はイエスの生れて一年か少し経た後の事であったと言はれて居る。

三、学者ケイムはヘロデ王の死なれし時はイエスの四歳の時であったと言はれて居る

四、ルカ傳三章一節より二十三節研究、ヨハネ傳二章二十節研究

以上の如く多の材料はあるにしても確実に知り能はざる事は事実にしてイエス降誕月日を十二月二十五日にした事は学者の説其の他を受け入れたのに過ぎない。しかしそうした事に就いての研究は未だ餘地あるものと信ずる。

断想

奈良静夫

＊

私は神の存在を認める、人格の至上を神と呼びたい、自己の生命も神だと思つてゐる、自分の生命に忠実な事である、それ故に私は自己の良心に対して忠実でありたい、然し時に自分の良心が間違つてゐることがある、これは当然許さるべきものだと思つて居り、この様な事のないやうに努めるのが自分達の最も大きい努めだと思つてゐる。

＊

総ての物は運命によつて決せられるものだと私は常に考へる、これによつて自分自分を最も経済的に生かすことが出

来ると思ふ。

＊

人は総て詩人でなくてはならない、或人は云つてゐる、藝術のない社会は完全なる社会ではないと、又厨川白村氏も人は馬鹿になつて少しは小説を読めと、これによつて始めて真実の人間生活に入ることが出来ると、私達は大いに考ふべきである。

＊

人間には他人を害せないだけの自由があつて欲しい、それが真実の自由だと或る人は云つてゐた、私も亦そう思つてゐる、その様な自由を得ることによつてのみ私達は真実の人

囘生活を楽しく送ることが出来ると思ふ。

終

ある物語（二）

小林桂子

若き酋長の命がけの恋に対して

さめて後の白人の娘の心は

あまりに冷淡なものであった

しかし此の嶋に長く居る事は

心ぐるしい事であった

やがて此の嶋にも別れる時が来た

白人の娘は父と共に去った

みどり色の椰子の木

熱烈であった初恋

夕陽の眞赤にもゆる嶋
娘の思ひ出は矢張り淋しいものであった
夢の様なムードに包まれた物語
美しい絵巻物の様な映画
私は唯魅せられた様になって
しばし甘い眩惑から
覚める事は出来なかった。

映画「文化果つるところ」を見て

聖句

健康ナル者ハ醫者ヲ要セズ タヾ病アル者コレヲ要ス 我ハ正シキ者ヲ招カントニアラデ罪人ヲ招キテ悔改メサセントテ来レリ （ルカ。五ー三一、三二）

迷へる人々

飯島研一

現代人の生活は可成に複雑してゐるものがある社会生活ー国家生活の規範規則中々こみ入ってゐる地上から姿を消して了はない以上はどうしてもこの複雑な生活規範の網の上に生息しなければならないのであらうがもっとく自分と同種の人類が作り上げた社会生活であり国家生活である自分の生活の支配権位は自分になければならない筈だいくら複雑々多な様式の蔽ひものをきせられたとしてもそこには自分の為の生活がある筈である　現代人の多くは外的世界のために生活して居るそこには自分自身の為の生活がどれだけあるか自分自身が考へるよりも餘

許に考へ自分自身が行為するよりも餘計行為する何と言ふ訳もなく動いたり汚したりして居る人々よ！ 空虚を感じないかの、寂寞が身にしみないかの、矛盾に苦しむ事はないかの、

人々の心は空虚なのだ、寂寞なのだ絶へず矛盾に苦しんで居るのだ元気よささうにはしやいでいかにも間違ひなささうな顔つきはしてゐるが矢張り矛盾、寂寞、空虚に懊悩して居るのである絶へず充されんことを願ひ力ある據り所を求め動かない正しいものに合致し様とあせつて居るのだ 人々の或者は求める眼の前におしせまつた懊悩の解決のためにそれから解放される為に救はれるために

求める幾世紀かの長い間かつて人間が作りあげたこれら救ひを求むる者のために殿堂、精舎、講堂、修道会等数多くを現代の社会はもつてゐる人々はこれ等多くの救ひの場所の門前でさまよい時には門に入つて救を歩くめまぐるしい生の営みの間にも安息の場所を求め心ならずも落ちついて考へ様として救へのまゝに身を任かせ様ともするそして彼等はある時はこれ等救への門内の空気にすつかり溶け込んでゐる時もある彼等はこゝに同じ懊悩を解決した人々の生活を讃美するあるものを禮拜することも慕敬することも出来る涙を流しての感謝も命を捧げての祈祷もなし得る様に感ぜられるがしかしさうした生活は長くは

続かない再び彼等はその門を出る然うして他の門より流れ出て来る光に泣かされて第三の門に這入るそうしてその門内の雰囲気にある何とけこむしかしそこにも彼等は長く居ることは出来ない折角落ちつきかけたものはゆるぎ出し新たな矛盾に泣き思はぬ陥穽に陥ってもがくのである歓びはしばらくにして嘆きとなるこの奇妙な自分のかはり様に今更乍らあきれるこれら多くの救ひの殿堂、講堂があやしくなり出す念々刻々に新しい自分は生れ出るそこには同時に新しい矛盾寂寞空虚が限りなく生れ出て来る苦悩は深みに入るばかりであるこの益々深み行く苦悩無限の懊悩を解決する殿堂講堂はどこにあるのだらう全く

発見し得ない不可思議なる自我の進展をある特殊の教義がある特殊の主張がこれを処決し得るのであらうか殿堂にあって受けば成る程苦悩の本質も絶対存の慈愛も肯かれないことはなけれども肯いても尚背きされないあるものが限り無く自分の中から生れ出る

未完

私の希望

藤原武夫

私の希望はユータ州（米国）にある私達末日聖徒イエス・キリスト教会本部の大管長と何等かの方法によって通信してたいは日本の信者を了解させ又多くの日本人をも了解させて一日も早く再び日本に傳道を開始される事を希望するものであります　そうして亦大管長並にロバートスン

先日本傳道部長等を連絡させて種種に其の様子を書いてもらい而して銘々なりとも私達の現在ある信仰をして進めて行きたいと思います。聊か愚言を、、、、、、（奈良北通信）

× × ×

藤原兄弟の希望は御もっともの事と存じます。先日ロバートスン師の許に通信致しました。其の文面の大体は教会の日本になくなった後吾々兄弟姉妹の動静と情報を発行して相互発達に努めて居る事、吾々の現在を大旨長によろしく申上げてくれる様に、尚珍らしき通信を下さる様種々書いて差上げましたから追って善き音信のある事と存じます。楽しみに待っていて下さい

奈良生

棕櫚

北川孫次

聖地を飾る清緑の
さよきすがたの其の木こそ
我等の願ふ心かし

。

いくとせ故郷いでしより
夢のうちにものぞみたる
神よ得させよ此の木棕櫚

。

荒寥の原氷河の道
アルプス打越へ石渡り

友よ行きませ棕櫚の下
。
数多の誘惑数知れず
毒もつ花もあるぞかし
されど忍びで得よ棕櫚を。

櫻草

たれとしもなしにかどのべに
さしていにたるさくらさう
それともなきをきみがうへ
なつみしこゝろいとほしや。

をはり。

望月れい子

○入会者

濱田久市代　大阪市外南河内郡松原町字本郷
桂鶴一代　大阪市天王寺松ヶ鼻町（字儀郎南横手八九）
久田進代　大阪府下泉北郡高石町北五二八ノ九
実科美津子様　山形市七日町旭座前通り

○会員の消息

中川三司代ミ珍らしや　三月末頃　浅草にて御目にかゝり昔の儘別に変りなく忠実に勤務せられて居らるゝ由うれし

北川孫次代ミ今回目出度くも早稲田高等学院へ入学せられました

山出為雄代ミ御舎弟は早稲田実業学校へ入学されました

米山連二代ミ御子息は成績第一番で甲府市師範学校へ入学され申した御喜び申上ます

豊澤栄子様　山梨県市川大門町の小学校で教鞭をとられて居られましたが三月三日付で甲府市湯田小学校に転ぜられ、多年の希望が酬いられましたので御喜びの事と存じます。　住所は甲府市相生町、、、三九です

望月謙太郎氏　震災後大いに奮闘し帽子卸商を独立経営して居りますが日に増し隆盛に向ひつゝある事は我等一同喜びとするところであります　尚一層今後努力せられん事を祈ります。

奈知江姉妹　ハワイに居られ聖き働きをして居ります其の後別に変りもなく　の人々に生活して居るとの事です
私達は姉妹の健康を祈りませう

◎編輯室

春も半ばになりました　愛する諸兄諸姉の生活振りは如何ですか　御変りもなく平和な日を送りつゝありますか　編輯室では何かと諸兄諸姉の身を心配致して居ります　時は先月（四月）は大分収穫がありまして　木村兄弟を通じて大阪からの通信があり親しく相語り合ふ機会のある事をよろこんで居ります　其れに通信と致しましては山形の鮫島兄弟を始め山形の依木兄弟、朝鮮の李良兄弟、札幌の藤原兄弟並に熊谷姉妹、東京の岩田兄弟並石田姉妹等あり　東京の白石兄弟とは久しぶりで逢い快談数合実に愉快でした　其れに編輯室では嬉しい事並ハワイの李知仕姉妹に通信致しました　愈々隆盛になって参りました　互に相助け合いませう　終りに諸兄諸姉の健康を祈ります。

（[illegible]）

吾等ハ

愛ナル神、御子キリスト、聖霊ヲ信ズルヲ
聖書ヲ心ノ糧トシ来リヲ
相互ノ発達ニ努ムルヲ
身ハ社会人類ノタメニ捧グルヲ
人トシテ全ク生キンコトヲ

信条トス

指標

第六号

大正十四年六月一日発行
日本相互発達協会

内容

迷へる人々　山形　飯島研一
桎梏より社会へ　東京　山出虎雄
こゝろ　朝鮮　奈良静夫
落葉集　東京　小浜美代子
軍隊生活に現はるゝ尊い必死の大努力　松本　吉水重晴
聖句
トルストイの小話より　東京　望月謙太郎
會員の消息
新入會者
編輯室

以上

迷へる人々（二）

飯島研一

各人々は各々の道を生きてゆく生の過程は独特である二存間に相容れざるの独自性が生の進展の中にこもってゐる汎人間的なあるものによって律せられない不可思議の発生と生長とをもつてあるものを各々の人々はもつてゐる。この不可思議なる自我自身が人間の本質である今こゝさしせまれる苦悩よりの解放を求めてゐるのである念々刻々に限りなく生れ来る我の限り無い苦悩の解放のための求道であるある型をもって予見し得ざる我の苦悩をどうすることが出来るといふのだ念々に生れ来る苦悩は念々刻々の我によって処決せられねばならぬ苦悩そのものが我であると

云ふ様なことはこの真摯な求道者の実際に於て耳を傾けざる処である苦悩の主体が我なるが故にこの苦悩を脱脚せんとする願ひの切実なる事実に於てこゝに真摯な求導が生れるのであるが少し妙な処に深入したが自分自身の救済はあくまで自分自身の打ち立てたる殿堂に聴くべきである現代の街頭に並び立つ諸種の主義信仰の殿堂に這入る人々がそこに長く居ることが出来ないのは無理もない独自の生の道程を持つ人間が汎人間的の範疇の中に這入つて行つてそこに矛盾なしに破綻なしに行ける筈はないのである偶像の崇拝に余念なく正義人道の旗風に心酔し得る時がどれだけ人々につゞいたか大抵の人にとつてはそれは

生活の一変調子に過ぎない生存過程の一時的色彩に過ぎないのである苦悩の救済所解決所の看板は掲げてあるがそれは謂はゞ出来合ひ屋が多い人々にはいつかこれらの出来合ひ屋の門を叩かうとしない時が来てゐる寧ろこれ等は嫌気がさしてきてゐる救ひを求め叫んで何処へでも飛込み度い位ひの空虚寂寞等値の苦悩にもがき乍ら尚内にひねくれていきづられてる様に生活して居るかくてこうした苦悩の生活自身が人間の生活である懊悩は人間生活につきものだと云ふ様な一種のあきらめが生れてくる人間なんだからこれが人間生活なんだからと云ふ生活肯定のあきらめの立場に一種の避難所を見出し泣き笑ひ

いする余暇を作り出したのである。笑っても苦しいその声は淋しさと矛盾の感情に階調が破れてゐる人々はこうした生活肯定から得た避難所がいつ迄も避難所であり得ない、ことに気が付く謂はゞさきの多くの救済の門が出来合屋であったと同じくこれは間に合はせ屋であった一時逃れの為であった念々刻々に生れくる我をその限り無く生れくる苦悩の風雨からかばひ得るだけの屋根が一時の間に合はせ小屋にどうしてあり得るか。人々には最早安慢が許されない時が来て居る今更に出来合物さがしを文ることも出来ない、益々自分一人立ちに成って行ねばならぬ処迄行き、考へねばならぬ処迄来る時が来たのである　自分の行く

道は何処迄も自分の力で行かねばならぬ時が来たのだ大海の一孤島に打ち揚げられた自分を知る時である あだ浪はさはぐ神話と理想郷と真我と仮我、生きた我と懺悔的我、生産と交換、全的革命と合法的革命、民主主義と社会主義、色々な対立のうるさい潮風が吹く空を蔽ふてくる懐疑の黒雲何物をも射徹す幻惑の光線この一孤島に立ちあがって自らの生を自ら生きる時なるを知る時である流浪者よ！諸君が懐疑者たり得てはじめて信仰者たり得ることが少しでも肯かれたら此のまとまりのない一文を草し終て筆者は一掬の快味を得るものである。

完

（一九二五、二、五）

棕梠より社会へ

（一）

山本虎雄

久しい間に亘って是非論議された軍事教育は愈々今年度から実施されることになって将校の学校配属も済んだやうである　わたくしはこゝで軍事教育そのものゝ是非を批評しやうとするものではないたゞ軍事教育を学校に於てまでも必要とする社会を考へてみたいのだ「われらは平民的国民でなければならぬけれど一旦国家に危急のある時は義勇公に奉ずる精神が必要である」とは屡々繰返される言葉である　わたくしは斯くの如き言葉が何等矛盾を感ずることなしに平気で云はれる又聞きもしてゐる今日の矛盾的社会を歎かずにはゐられない　都合のいゝ時

は愛し合へ悪くなったら殺したって構はない　これが今日の社会の一般的思想である　そして一切の社会現象はこの思想に出発してゐる　現代人は平和を愛好してゐるといふけれども其の言葉は自己の利益である時のみに限ってゐる　即ち人間の残忍性を今日の社会思想を覆ひ隠さんとする仮面に過ぎないのだ　今日の社会は利益の社会である　利益の存する処にのみ社会は発達し平和は存続する　機械的物質文明は利益生産の手段である故に利益の為には如何なる残虐も偽りも社会正義として認容される　けれども斯くの如きは決してゆるさるべきものではない
わたしたちの生活は真摯でありたい平和でありたい、偽り

の衣を脱ぎ棄てた眞裸体の生活でありたいのだ　そして
この考へは地上に神の国を建設しようとする思想へ導か
れずにはゐないと思ふ。

こゝろ

奈良静夫

心の底のかそかにひらくも
またとぢる心のさびしさへ
やみとひかりのまにまに
われ一人悲しく漂ふ

☆

心の底のかそかにひらくも
またとぢる心のわびしさ

やみとひかりのかげに
なみだして良心は泣く

☆

心の底のかそかにひらくも
またとぢる心悲しく
こよいまたつみの子は
祈られず日誌も書けず。

落葉集（一）

小坂美代子

×　×　×

あなたはこんなこと御存じでせうかの、
人は多くの友がある時は独りを愛し懐しむ

独りはどんなに安らかだらう。と
けれど
やがて全くの独りになった時
たまらなく寂しくなって泣くでせう。
人はしばしば考へ過ぎた時
考へなかった昔を恋しく思ふでせう。

孤独を恐れる者こそ本当の孤独を味った者
人間は孤独に堪えられないと
此頃しみじみ知りました。

未完

軍隊生活に表はるゝ尊い必死の大努力

吉水重晴

世の中には恐らく軍隊生活程尊い決死の大努力の表はれる処はありません、男に生れて健康の体を持つてそれで国の為に命がけの努力を捧げて何の報酬も心に浮べず露ほどの不満もいだかず、潔よく任務を果すと云ふ程尊い生活がどこにありませうか、若し神の眼から御覧になつたらこんな気高い人間の姿は他にはありますまい、国の為に一身をなげ出すと云ふのは上御一人を始め同胞七千万の為に働くと云ふ事です、一枚の紙にも一本のペンにもそれぐ価値があるのに此の千万年にも受けがたい人間の身体を何の報酬もなく無條件で投げ出すと云ふのは人間として最高の

名誉無私無慾の最高の努力と言はねばなりません「兵役は人間労力の最極度である」と言った人がありますが実にその通りであると思はれます、単に労力が極度であるのみではありません、一旦事が起れば「死」と云ふ問題に直面して立たねばならぬのです人間にとって「死」ほど重大な事柄はなく何う考へて見ても自分で容易に解決の出来る事ではありません、それが独り我が軍人にあっては一言半句の理由を述べずにきっぱりと解決されて居ります、どんな智者学者でも「自分の死」といふ問題はなかなか解決の出来ないのを事もなく解決して「死」に直面しつつ快活に人間極度の労力に従事して居る態度は気高いと見、尊いと評して誰が異議を申しませう、軍人

として兵営生活を見ると、如何にも規律正しく身心共に緊張して日夜営々任務の為に努力する姿は人間生活上他には何処にも類例の見られぬ大模範であります、人間生活上に表はれた最も貴重なる一場面として之を見るとそれは申す迄もなく国民精神の尊い表現であることを何よりも心強い感じが浮び日本民族として最も世界に誇りとすべき特色は慥に此の軍人生活にある事が首肯かれます。

完

聖句

子たる者よ なんぢら主にありて両親に順へ これ正しき事なり「なんぢの父母を敬へ（これ約束を加へたる誡命の首なり）然らばなんぢ幸福を得 また地の上に壽長からん」（エペソ六、一―三）

「トルストイ」の小話より

望月謙太郎譯

其れは復活祭の始めの頃の事でした今迄硝子の様にはりつめて居た氷もとけ始めて幾すじかの水の流れが田舎の所を走って居りました畑を通て来た泥水が集て大きなぬかるみになって居る所でアコウルヤとマルシヤの二人の少女が出逢ひました二人は新しくて美しい着物をきて居りました小さい方の子は青色の服を大きいアコウルヤは黄色の服でしたそして二人は同じ様な赤いハンケチを頭から被って居りました二人とも教会の帰りなのでした始は新しい着物の話等から仲良く遊んで居りました二人は好奇心に誘はれて夫ぬかるみの傍へ来ました小さい方が靴の

係水溜りに入らうとしましたので「マルシヤさんおよしなさいお母さんに叱られてよ私は靴も靴下も取るからあなたもおぬぎなさい」とアコウルヤが言ひましたそして二人は素足になつてスカートのすそをからげてジヤブ／＼と水の中に入りました泥水は丁度マルシヤのくるぶしの辺り迄ありました「いらつしやい怖くはなくつてよ此れより深くはならないから」と言はれてマルシヤは怖々水の中へ歩き出しました丁度二人が接近した時でした「ハネを上げると大変ですから気を付けて頂戴」と言ふか言はない内にマルシヤの如減なしに下した足許からピシヤリとハネがあがりましたそしてアコウルヤの黄色い服にかゝり鼻や服の所迄も泥水

がハネ上がりました。

未完

◇會員の消息

齋藤トヨ孃……山形市香澄町大宝寺
中村照子孃……同市同町東中堂四
海沼富美子孃……同市宮町字横宿二二四 に各々居住

羽田幸雄氏……大阪市東区高橋三ノ三四永田ノリヤス機械出張所へ移転致しました

望月謹太郎氏……四月二十九日男子出産 謙一と名づけました 目出度い事です 私達は共に御祝致しませう

北川孫次氏……今回特認生徒となり卒業後は早稲田大学教授となる目的で頗る有望ですおよろこび申上ます

飯島研一氏……山形市にあり某会社に勤務する身になられた由です 多幸を祈ります、

◇新入會者

毛利澄江様　兵庫県武庫郡深江堤外ニ居住

編輯室

毎日欝陶しい五月雨の降続く頃となりました、敬愛する諸兄及諸姉には如何御暮し遊ばされますか

年会も月と共に進みだんだんと隆盛になりました事は偏に皆様方の御盡力に依る事と御礼申上ます　扨此度地方の震災に対して金弐円也年会々員一同として東京朝日新聞社へ託しました　就ては五月三十日朝刊の会員の寄附欄を御覧下さい、五月になってから会員の石谷、望月、吉水、小浜、鮫島、藤原、毛利諸氏から御通信を頂きました

他の会員方も何卒御近況を御洩し下さい

崇良

協拓

第七号

十四年七月一日発行
相互発達協会

内容

聖書の研究（三）　東京　奈良富士哉
トルストイの小話より　同　望月讓六郎
美しい星　同　望月れい子
落葉集（二）　同　小沢美代子
金沢の海岸にて　同　北川孫次
聖書の最初の国語に就て　札幌　藤原武夫
運命を呪ふ　山形　飯島研一
會員の消息
編輯室より

以上

聖書の研究 (三)

宮良富士哉

東方の賢者三人に就て

イエス、キリスト御降誕の際東の方より異邦人なる三人の博士がエルサレムを経てベテレヘムに来てイエスに親しく逢った事は既に聖書で御承知の事であると思ふ　然るに其博士等が何処より来たかは余りに知る必要を認めなかったのであるしかし研究する所によると　フエザース　やエダーシエイムやケイムの諸家は　アラビヤから来たのであらうと言って居るし亦ウエイズ代は　メディアか　ペルシヤ　から来たのではないかと言って居る　然し乍ら　其の真偽は　判明しないのである

占星家であった　博士等は　アラビヤに於て異様なる

大星を見たが時のユダヤの王(ヘロデ)も祭司の長もユダヤ人等も少しもそんな事は知らなかったのであった博士等は先づエルサレムに於て(ヘロデ王に)イエスが(ベテレヘム)の地に御降誕せられた事を告げ(ベテレヘム)に行きてイエス御降誕の場所を知り大いに喜んで宝の箱を開いて黄金、乳香、没薬などの礼物を献げたと書かれて居る(マタイ二章一節より十二節迄参照)其れは以前に書いて置いたが博士等のイエスに逢った時イエスが幾才であったかは判然として居らない何はともあれイエス御降誕に際して東方の賢者三人が来られたと云ふ事は聖書によって一点の疑をはさまないものである。

トルストイの小話より(二)

望月謙太郎譯

新しい服に泥のハネ上がったのを見るとアコウルヤは怒て「マー随分ネー」とマルシヤを打ちそうにしたのでマルシヤは逃け出そうとぬかるみの中をかけ出しました其処へアコウルヤのお母さんが出て来ましたそしてアコウルヤのスカートの汚れて居るのを見付け「マーお前は何をして居たんです汚たない子だネー」と言ひました「マルシヤさんがわざとしたのよ」と言ひましたのでアコウルヤのお母さんはいきなりマルシヤの頭をつかまへて肩を打ちましたマルシヤは村中響へる様な声で泣き出しました二人どは

マルミヤのお母さんが出て来ました「家の子をなぜ打んです」と怒なりました一言の悪口は次の悪口を誘てとうとうみにくい喧嘩になって了いました男達も外に出て来ました二人を囲んで大勢の人立になり人々は口々にどなり合いました誰れもどなるばかりで一人も歩く人がありませんでしたそれでとうとう大勢のあらそいの様になりました其処へアコウルヤのお祖母さんが出て来て皆んなの向に入ってしずめやうとしました「マーマー皆んなであらそったて仕方がない鬼に角お祭りだと云ふのに仲良くしたらどうです元は些細の事ですから」となだめましたが何人も耳を傾ける者もありませんでした皆んながあらそって居る間にア

コウルヤはスカートや袖の泥をふいて亦元の水溜りの方へ行きました マルシヤも続いてやって来ました アコウルヤは水溜りの端の方へ石をならべて溝を造へ始めました マルシヤは其の石の間を木片で堀りました すると溜って居た水が二人の造へた小さい溝を通って所の真中に流れ出しました 大人達が古い事迄も言い出して喧嘩の花を咲かせて居る所へアコウルヤとマルシヤの造った小さな水の流れが走って来ました 水溜りの所で投げ入れた紙片がいきほいよく流れ出したので其の流れをはさんで両側から紙片を二人の少女が追いかけました「マルシヤさん早くつかまへないと流れて了ふ」とアコウルヤが申しました 余り良く流れ

て行くので無中になって二人は追ひかけて来ましたので下産皆んなが言ひ合ひして居る所迄来て了いましたそれを見てアコウルやのお祖好さんは皆んなに言ひました「こんな子供達の事から喧嘩等を始めて気まりが悪くはありませんか御覧なさい二人はもう仲が直って面白さうに遊んで居りますよ子供はいゝものですネー寧ろ大人より余程聞行じやありません」かと皆んなも二人の様子に気が付きまして少し恥かしくなって来ましたので一人〳〵だん〳〵と自分家の家へ帰って了いました

「凡そ幼児の如くに神の国をうくる者ならずば之に入ること能はず」

完

美しい星

望月凡い子

おだやかな春の夜よ
まるいまるい大空の銀のまたたき
そのなかの一番光る星の美しさ
なつかしい人の眞実と愛とを
信じてゐる心には
この不可思議な自然も
さうむごたらしいものとは思へない。

落葉集（二）

小浜美代子

× × × × ×

今となって寄宿舎に居た友の言葉が思はれます

「お休みになって家へ帰り着いた嬉しさよりも家路をたどる東上の思ひがより嬉しい」と。

× × × ×

東坡の詩にもありました

廬山烟雨浙江潮　未到千般愁不消
到得帰来無別事　廬山烟雨浙江潮。

なべて未来は嬉しいもの
あくがれと望み
それは私等の與へられた唯一の幸福でした。

金沢の海岸にて（朝）　北川孫次

○ ひた〳〵と岸辺に寄する浪音も

しのびやかなる霧深き海

○金沢の大海原は霧深く
眠れよがでと浪静かなり

○ほのぼのとのぼる光をおしわけて
淋しく寝る海鳥の影

聖書の最初の國語に付て

藤原武夫

「私は今愛する諸兄諸姉に自分の見たまゝ又聞いたまゝの事と自分の感想とを述べたいと思います」世界の諸国の歴史に就て色々の言語を尋ねる事は大切な事柄でありますけれど是れは奥深い研究にして大変難かしい事であると思います茲に唯一つの明かなる事実はバベ

ル（創世紀十一章一節より九節参照）を建る時迄凡ての国は一つの語と一つの音のみでありましたが其の後言語は不意に乱れて互ひに之を綴り合すことが出来なくなりました故凡ての地の面に散されねばならぬ事となり其れより新しい処々に植民しました其れによって彼等と其の子孫等は銘々異なる語を作って之を用ふる様になったのだと思ひます

博士カストは「今日は世界中に二千以上の語がある」と申して居ります　抑々ノアの洪水より以前に於ける言語は今日の人々が之を知る事は出来ません　が洪水以前に書き記したる事に就て唯一つだけ知る事が出来ます　それはカルデアの碑文に依れば其の洪水に就てウットナピスチム

即ちノアは舟に到る時かき記した書を持って参りました此の碑文は運命の碑文と申すとあります 或る人は之を以て洪水の前に黙示せられた文であると思って居りますが此の点に就ては何等の証拠もないのです （未完）

運命をのろふ

飯島研一

呪はしき運命が
恐ろしき顔をして
私にせまって来る
あの歯はたゞしい走りよ
私は只あの運命の奴に
此の一身を捧げなければならない

若き理想も空想も
運命の奴が引さらって
持っていってしまう
魔の様な運命の支配を待つ
私のあはれさ
あゝ！若いと思ふ私の運命は
あまりに淋しい
あまりにも悲惨だ
現実と云ふ呪はしきものゝ前に
凡てをすてゝひれふさなければならない
人間の現は——ることよ。

終

會員の消息

山出虎雄氏―前月中旬より約一ヶ月間九州方面へ公務出張 其の後同地より無事の通知を受けました

児玉玄二氏―六月二十五日珍らしや偶然にも御遙び致しました別れ御座りますへ御幸福の由

飯島研一氏―八月初旬暑中休暇を利用して上京せらるゝ予定其の節出来得れば大会を致しては如何との希望をよせられました

岸知江帯子氏―御健在にて神聖なる働きを致して居ります（ハワイより通信）

木村昌治良氏―今度上京せられ早速訪問を受けました

其して大阪に於ける信者等の輝に一層発達協会に対する慎重なる御意見希望と指導を承りましたことをよろこびます

浜田久市氏ー大阪市天王寺区上宮町五八に転居致しました　其の後同氏より大阪の信者諸氏の御住所の通知を受けました感謝致します

奈良者三氏ー画号鹿仙、秋田県鹿角郡花輪町の旧公会堂にて個人展覧会を開催しましたそうで　田舎の人々を驚かしたそうです　其の時の状況は追って発表致します。

◎編輯室より

編輯子の多忙の為め六月号は思ひの外印刷と製本が遅れました事を皆様に深く御詫び致します

今月も会員諸氏からの消息が大分ありました事を何より嬉しく思ひます

取りわけハワイに傳導せる奈知江さんからこまぐの御便りあり彼地の近況を知る事が出来ました事を謝します

本教会のますく海外に於て盛んな事を追って誌上に載たいと思って居ります

向暑の折柄諸氏の御健康を祈りながら右一寸御断りまで

（奈良）

棕梠

第八号

大正十四年九月十五日発行

相互発達協會

目次

聖書の最初の国語に就て　藤原武夫
落葉集　小浜美代子
トルストイの小話より　望月謙太郎
趾（短詩）　奈良静夫
ハワイ便り　奈知江常子
秋（歌）　源子
兵営消息　吉水重晴
聖句
お断り　奈良富士哉
編輯部より

おわり。

聖書の最初の國語に就て

藤原武夫

多くの博士達の考に依れば人間の中に於ける最初の文字は意味の形象を書き著はしたものであると曰はれて居ります。其は人の腕に棒を握て居るは力を意味し婦女が管絃などを吹奏して居るは喜悦を意味し又狐の繪畫は狡猾を意味するなどで、今より三千年以前バビロンに於て最も古い祭壇の石を発見したる時斯くの如き文字を以て書記されて居ましたが是は今倫敦の博物館に藏められて居るさうです。併し乍ら國々によつて各自に其文字が違ふのです。例へば埃及では種々の絵圖を以て其音を示しました。鷲はA 脛はB 獅子はR 或はL 家はHを以て之を示したのです。而して昔のカルデヤの字は二つに別れて居りまして其一はエミヤと云ふは

南バビロニヤで又アカートと云ふは北バビロニヤであります。此は創世記十一章二節に「シナルの地と唱へられて居る處であって其国語はシユメロ、アカデキン語と申し弓形を以て其の考を示すべき圖を記して居ましたが後に四角な粘土の型を用ふる事になり弓形の代りに箭形の文字即ちキユニフオルムを以て其の言葉を書き表はしたのです。此はバビロンアッシリア ペルシヤ等の国々に於て紀元よりの風習となって居りました又五千年前より現今に至るまで昔のバビロンの遺址から沢山の碑文を堀出したので其等から解って来たのです。

（未完）

落葉集

小濱美代子

昔

幼い時見た大人の夢に
忘れたものがありました
それは「若葉」
けれど今はそれがすべてになりました。
そうしていつしかと
幼い時に見た夢は
あくがれの玉に残したまし
みんな忘れて了いました

× × ×

2

『寂しい』と書いた字に
みぢめな自分を見出して
かわいさうになりました
筆の穂先をかみしめて
濃い墨をつけた筆で
二度とかく気になれません
その字が笑ってゐる様で。

トルストイの小説より　望月謙太郎訳

イワンドミリッチ、アクスヨーフはヴラドイア生れの快活な青年でした其所の二軒の店の主人で音楽の好きなそして美しい髪に睛

にぎやかな顔の持主でした彼のまだずっと若かった頃には随分お酒も呑んだり乱暴もした事が有りましたが結婚後は呑むことも出来ませんでした　或る夏の事でしたジニーの市場へ商用で出立する間際彼の妻は馬車の馭者台に腰かけて居るアクスヨーフに「今日お立ちになるのは止めて下さいな昨夜いやな夢を見たのが気になって仕方がありません」と云いました「大丈夫だよ」分った又市場へ行くと呑むとでも思ってるんだね」と笑いながら云いました。而し妻君は真面目に「イヽエそんな事はどうでもよござんすがほんとにいやな夢でしたから――貴郎が市場から帰って来て帽子を取ったらあなたの髪の毛が真白に成って居たのですよ」と夢の話をしまし

たがアクスヨーフは笑ひながら「それは縁起の好い事ではないか
品物を皆んな売って新規なめづらしい物やお土産を買って
来るから待ておいで」と小僕に云ふ様にして手綱を取りました
馬は元気よくこの若い商人と品物を載せて歩み出しました丁度
其日旅程の中ば迄来た時矢張街へ商ひに行く仲間の商人
と連れになりました 日の暮れには其商人と一緒に宿に着きま
したそして一諸に食事をしたりなどして隣り合った部屋で眠
りました。早く寝て早く起きて涼しい内に少しも余計に歩かう
と思って其夜も早く寝込んで仕舞ひました。そして翌る朝はまだ夜
明け前に馭者を起して支度をさせました其間に自分は後に
住って残る宿の亭主を起して勘定を払ひ了りなどして東の空

まだ白まない内に立ちました。宿を出掛けてから廿五哩も来た頃馭者にまぐさをやるので馬車をとめました。アクスヨーフは宿屋の広い土間でサモヴァルを温めて持って来る様にいゝ付けておいてギターをひき初めました。其時あわたゞしいベルの音をさせて走って来たトロイカがアクスヨーフの乗って来た馬車の前でピッタリとめました。そしてドヤドヤと二人の人がおりました。その二人は軍服を着けた軍人でした。先に立った一人は鋭い目であたりを見廻していきなりアクスヨーフに質問をし初めました。何処から何処へ行くのか名は何んと云ふのかと色々たづねました。アクスヨーフは「うるさい」と思ひましたが一度返事をしました。そして「まあ一緒にお茶でもお上りなさい」とすゝめましたが其男は尋問を止めま

せん　君は昨夜は何処で過したか　ひとりで泊ったか仲間があったか　今朝は其連の商人を見たかどうか　何故未明に出立したか
アクスヨーフは何故こんなに問はるゝかと訝りましたがそれでも問はるゝまゝに答へました　そして「一体どうしたと云ふんですまるで泥棒か何かを調べる様な事を仰るが私は商用で旅をして居るのですそんなに質問は必要あるまいと思ひますがな」と云ひました　その男は一諸に来た軍人等を呼んでからアクスヨーフに向って「私は此県の警察官であるが昨夜お前と一諸に泊った商人が今朝首をひどく切られて死んで居るのを発見したから之を小で取調べるのだ」と云ひました

未完

一九二五・九・九

跋

過ぎし日を
罪の日と
嘆かはしき時
神にゆだねと
光は遠く
心祈らず
踏み来し路を
歩み皆も

我はみる
怒りの日と
日々に満つ
君云へど
荒びたる
又しても
おどおどと
弱き我身よ

奈良静夫

一九二五・八・五

東知江 常子

ハワイより

先生様

あなたのお手紙を五月十八日に拝見いたしましたお変りなく何時もの如く熱心にお働きの由何よりよろこばしく思ひます又近頃は皆様が責任を以てお働きになる事を伺ひまして私は本当に嬉しく思ひます。そしてシエロと云ふ雑誌も発刊されて地方も進め又進み合ってお出でになる事とよろこびます 何卒信者並に安息日を守って働く様に伝へて下さい。そして聖餐式をも守る事を望みます。是は我等信者の神に對する義務です。己の如く汝のとなりを愛すべし 皆様がよろこんで此為

にお働きになるならば神様も一つだった方に不自由をさせません 恵みをおしみません。 我々は是れから日本伝道の為に力をつくして働かねばなりません 私は日本を出てから満二ヶ年に成りますが 朝夕日本伝道と信者の為に祈っております 私は神の助けによりて今日迄一日も休まった事がありません 皆様熱心にお働きなされば私もよろこんで一日も早く帰国いたします。

当地の教会は それは〳〵実に盛んです 五月初旬に大会がありましたが 二千二百人以上の人でした 他の島々からも沢山のお金を使って集ります 斯う云ふ場合信者は宣教師を自動車で送り迎へしたり宣教師のため

に色々つくれますから此所の伝導は全く楽で尚信者が熱心なので宣教師も能く働きます。何卒皆さんはげんきで下さい。そして会員の名簿とシュロ、絵楽しみにしております。一日も早くお送り下さい。

七月廿五日　通信の一節より

なのき、

涼子

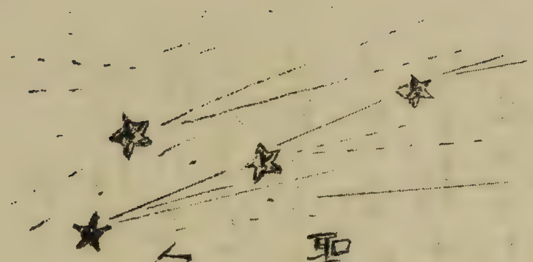
ころころと窓辺近くにこほろぎ鳴き
寂しき音して秋も来にけり。
朝つゆ如く消えにし亡き姉妹
秋くるたびに思ひ出はつのりし。

兵営消息

炎熱とあらゆる苦痛と闘って来ましたが小生極めて元気例の胃病もすっかりなおり何時も昨夏や去年の如く体重は十六貫九百を上下して居ります。何卒ご休心下さい。去月廿八日には一番射撃があったので又賞状と湯呑を頂戴しました。しかし先日の名誉射撃にはあらゆる練習に猛威を振いましたが残念ながら名与旗は第一中隊にとられてしまいました。日頃自分が射撃に得意である腕前が此時に限って表はれなかったのが残念の極です。しかし當日小生は四十三点まで吾五中隊までは第二位なるも當日聯隊長殿より賞状を頂くことに成っております。そして聯隊第一

の卒業称を受けました。漸くこれで一段落つきましたが又今度は剣術でも。それからそれへとすばらしく御発展の方、お許し下さい。姉上へ宜しく　先は右近況まで

松本五十聯隊にて　吉永重晴



聖句

哀ム者ハ福（サイハイ）ナリ。其人ハ慰ヲ得ベケレバ也

心ノ貧シキ者ハ福ナリ。天国ハ即チ其人ノ者ナレバナリ

アワレミ有ル者ハ福ナリ。其人ハアワレミヲ得ベケレバナリ

心ノ清キ者ハ福ナリ。其人ハ神ヲ見ル事ヲウベケレバナリ

和ヲ求ムル者ハ福ナリ。其人ハ神ノ子ト稱ヘラルベケレバナリ

タダシキ事ノ為ニ責メラルル者ハ福ナリ。天国ハ即チ其人ノ者ナレバナリ。

「おことわり」

私は緑葉いよいよ濃くならんとする去る七月半ば頃公務のため北海道へ出張いたすことになりました。北海道は父の在世の時分長らく住みましたので私にとつて第二の故郷とも云ふべき處であります。南から西へ西から又東と殆んど方々北見、釧路まで參りまして随分急がしい旅行でございました。こちらの信者四五名の方に僅かの機かいに漸くお逢ひする事が出来ました。熱信者婦人にも都合よくお目にかゝる事が出来て各地方の信者の動静やら其他色々の報告いたし楽しい談話に夜の更くるも知りませんでした。

私はからも許々が健兄より八月一杯居残はつきぬ北海道の地を離れ漸く帰京いたしました。私はからすぐ其後今度は松岡先生大阪へ行き又郷里より来て古文の二回忌法要の為帰京いたした様な始末であります。次の号は斯うして多忙の為先月号の様相発行が大変おくれ私何ともお詫び申上様もございません。今後は決して之な事のなき様出来るだけいたすつもりですから何卒寛大なる御心の諸兄姉達よ、お許し下さい。

猶右之様な訳でして暑中見舞も差上げずあつかり御送付下さいました会員の諸氏から頂きました事は謹んで茲に厚く御礼申上げます

九・二一　大森良

◈ 編輯子からのお願ひ

御投稿下さる方は何時も〳〵同じ人のみの様に思はれます。どうぞ会員の皆様あらゆる方面から是非原稿をお寄せ下さいます様願上ます。

―お詫び―

主人が多忙のため、今月は私が代って編輯いたしました次第ですが、全く斯う云ふ事には初めてなので不注意な個所のみ多く書き落しも充分出来ず拙い字で失礼を幾重にもおわび申上ます。年末皆様の御健康を祈り上げます。

M子記

棕梠

第九号

大正十四年十一月一日
相友斧達協会

目次

聖書の研究　奈良富士蔵
トルストイの小話より　望月謙太郎次
月の宵　飯島研一
聖書の最初の国語に就て　藤原武夫
ひとりゐなれば　山出とらを
聖白
會員の消息　編輯子
編輯室

以上

聖書の研究（四）

奈良生

イエスの教育

イエスの家庭に就て

私達はイエスの両親は品性高潔である事、ユダヤ王ダビデの直系である事のみならずイエスに兄弟姉妹のあった事は聖書によって御承知の事であると思ふ。私は些かイエスの家庭に就て研究して見やう。

ヨセフとマリアは当時人々の生命がパリサイ主義（偽善主義）の支配下に在った時でも謙遜な神聖なる真の宗教を維持する最も小さな仲間に属し、バプテズマのヨハネ並其の家庭及シメオンとアンナも勿論其の仲間であったのである。ヨセフは善人であった（マタイ一章一九）神の御告げに従順であった事は云ふ迄もない（マタイ一章廿、二章十四、二十一―二三）故にアブラハムの様に彼の心は常に

天使と通じ殊にマリアが聖霊の御力によってなされた事の総てに全然的信用を持て居た事は明白な事である（マタイ一章十九－二一）彼はイエスに大工の仕事を習はし人間としての道を行はしめたのであった（マコ六章十三、マタイ十三章五五）イエスがナザレの家族にあった時から天父は常に彼を護り経験と思想との調和を與へ殊に愛と知慧に富み家庭にあった年少時代に彼は子供を愛し同情をもちヨセフとマリアに喜びを與へて居た（マコ十章十三－十六、九章三六、マタイ十八章十）　私達が現世に於てイエスの愛の働きをみるならば彼の内的生命の発達が正則にして如何に美しく恵み深かりしを感じられる。其処で私達はイエスの年少期を思ふ時特別にヨセフとマリアのナザレに於ける家庭生活が如何に美しかりしを容易に知ることが出来るのである。

トルストイの小話より

望月謙太郎訳

アクスヨーノフの荷物はその警官や兵士等の手で調べられました。一本のナイフがトランクから引出されました。「これは何者の所有品ですの?」アクスヨーノフは自分のトランクから血の附いた大形のナイフの出たのを見ました。「どうです。こんな血痕が附着して居るではないか」と警官はそのナイフをアクスヨーノフに示しました。アクスヨーノフはすっかり驚いて顔の色さへも変へて了ひ、口も碌々利けません。僅かに「そんな物私、私は知りません」と吃りながら答へただけでした。「実は今朝あの商人が殺されて居るのを発見したのだが、鍵はみんな内から掛って居たし、何者も忍び込んだ形跡もなく、すぐそばの室に居た

のは お前一人のはずだ 此一こゝに血の附いたナイフがあり
お前の 擧動から見ても お前の犯行としか思はれないが
どうして殺したか 又金高は何程盗人だか 有体に白状
して了へ」と 警官はきゝめつけました 自分は 昨夜宵の内に
一緒に食事をして 以来は 逢はなかった事や 自分の持って
居るのは ハイナルーブルの金で それは家から持て来た事な
どを 並べて 一生懸命に 潔白を主張しましたが その声は
あやしくふるへ 顔色は 土色になって居ました そしてガタガタ
とふるへる 様子は まるで その犯人の様です 警官は兵卒に
命じて アクスヨノフを 縛りました 手は後へ 廻はし足は
二本揃へて 固く 縛り上 警官等の 乗て来た 馬車に投げ

込むやうに乗せました アクスヨノフは身悶へして泣きましたがどうする事も出来ませんでした 持ていた現金や持物はみんな取上げられて自分は近所の未決監へ入れられて了ひました アクスヨノフの操行其の他に就ては幾度か其の町の警察署から ヴラディミーアの町に問合せがありました商人の仲間や町の人々の答へでは以前は酒も飲んだし少しは悪い事もしたが まあ良い人だと言ふ事だけでした其の内にとうとう審判の日が来ました そしてリヤサンの商人を殺して二千留の金を盗んだ犯人として検事局へ送られました アクスヨノフの妻は すっかり失望して気を失った様になって了ひましたが どうしても其れが真実とは信じられ

ませんでした　子供等は未だみんな小さく　一人はほんの赤子でした　その子供等全部を連れて　アクスヨーフの監禁されて居る所に尋って来て　夫に面会の手続をしましたが　始めの内はなかなか許可されませんでした　幾度か無駄足をし　幾度か嘆願してやうやく会ふ事が出来ました　人相の悪い重罪犯人や泥棒等と一緒に監獄の仕着をきて　腰に鎖をつながれて居る夫の姿を見た時彼の女はもう　立って居る気力も抜けて了ひました　べったりと其処へ座って了って　何時迄も気がつきませんでした　やうやくに気を取直して　夫の顔を見つめた時　其の目には涙が一ぱいでした　子供等を膝へ寄せ付けて　アクスヨーフのそばへすりよって　家の留守中の出来事を話したり　アクスヨーフも別

れてからの事を のこらず話しました「それでは これから如何しませう」と妻はふるへ声で云ひました「皇帝へ嘆願書を出して無実の罪で苦んで居る事を上告しやう」と答へました「もう嘆願書は提出したが却下されて了ったのです」と妻は泣きながら申しました

以下次号

月の窗

飯島研一

◇風そよかなる皐月の窗
たゞしくと窓に寄りそへば
ほのかにかほる ふるさへ思ひ。

◇月白き夜のうたごころ
たゞ憂しとせん悲しみの

重き悩みにあへなくも。

◇

あわれとも
呼はなん貴なる君
いかにみますとぞ
思ふ……今

◇

灰色の血汐
胸にくるへば
さてもかんばしき一什ふの夜

◇

たどしゝと
窓に寄りそひて
闇なる月に憧憬る、身よ。

聖書の最初の国語に就て（三）

藤原武夫

多くの博士達は人間が初めに話した所の言葉は此のシュメロ、アカデヤン語であると思って居りますけれど之は多分バベルに於て言語の乱れる前に用ひた一つの言葉であらうと思ひます　即ちアダム、エデン、サバッス等と云ふ言葉はアカデヤンの言葉と思ひますが此のシュメロ、アカデヤンの言葉はアブラハムの時代まで用ひられたるも其後は全く廃止された様になって大学に於てのみ研究せられたのです　而して其の時の人々にはネブカデネザル王の時代までセミチックバビロンと云ふ語を用ひて居ったさうであります

又博士達の考へに依れば（イ）アブラハムは神の命令に従ふ為にカルデヤのウルより出でて河南（カナン）の地に住みました故　其の故郷

の語を棄て、河南人の言葉を用ひて居りましたけれどもアブラハムの子孫なるユダヤ人はそれより数百年後に至り神の刑罰に由って奴隷となりバビロンに永く囚はれて居りましたから段々と其のヘブル語を棄てゝカルデヤ又はアラマイック語を用ふる様になって遂に紀元までに至ったのです併しアブラハムが河南の地に往きて用ひたる河南語は後にヘブル語と唱へられたのです即ち……(曰)河南の方言を語り云々の句はヘブル語を指したのでせう又英国ロンドン博物館へテルエルアマルナより持来りし碑文はアブラハムより後凡そ四百年の頃かきしるしたものでカナン即ちヘブル語で書いてあります　例へばラバンが記念碑を造るに石の柱を立てゝ之を(い)「エガルサハドタ」

即ち「證の柱」と唱へました如きは全くカルデヤ即ちアラマイック語にして又ヤコブがカナンに居りました故之を「……、ギリヤデ即證の柱」と唱へましたけれども此の二つは同じ意味で一つはカルデヤ語にして一つはカナン即ちヘブル語であると思ひます（未完）

引照、（イ）創十二章一－七節　（ロ）賽十九章十八節
（ハ）創三十一章四十七節

□ひとりゐなれば（短歌と小曲）　山出とらを

ロ　独りゐのこゝろさびしも
夕されば
み堂の鐘もかそけくひゞく

□ 遠寺の鐘の音きこゆば
しみじみと
すさみしこころいのらんとす

□ 憎悪てふスペードの札は
悲しかり
占いの遊びにてありしかど

□ 打さわぐ人らのこころ
さびしみて
花にそむきし春を歩めり

□ □ □

ひとりゐなれば
こゝろさびしや
うすもやのうちに
なつみし君の
姿消えゆく

ひとりゐなれば
夜はさびしや
うらぶれしこゝろ
あわれ悲しや
光り消えゆく

ひとりゐなれば
いのらんとすれど
うつろのこゝろ
いとしや君の
姿のみうかぶ

ロロロ

聖句

汝等仇を愛し又善をなし何をも望ずして
借し與へよ然は其むくひは大なり

（路加傳第六章三十五節）

會員の消息

新入會者　初谷三千代　札幌市

野坂はな氏（東京信者）
久しく病気にて大磯へ転地後杏雲堂病院へも入院せられましたが其の効あって先月末退院遊ばされ目下自宅にて御療養中です一日も早く御全快を祈って居ります

米山盛蔵氏（甲府信者）
郷里へ転勤せられて目下甲府市新紺屋町に住居して居られます

藤原武夫氏（札幌信者）
度々の御便りにて北海道の信者達が無事なる事を知りました

鈴木博氏

目下山形聯隊に入営中 善く軍務に精励の由よろこびに堪へません

吉水重晴氏

今松本聯隊入営中 班内にて優秀なる成績の由現在は上等兵候補者として 特別の教育を受けて居るとの事真に嬉ぶ次第です

△編輯室

木の葉の凋落と冷やかな月を眺める時あの寒い冬がだんだん近づきつゝある事を思はずには居られません しかるに本会も

無事に斯うして進歩発展して号を重ねる事はたゞ諸兄姉達の真心ある助力の賜たる事と深く感謝に堪へないのでございます 尚一層の御力添を願上ます

就ては本会が今般左記へ転居いたしましたから 御通知申上ます 編輯を終るに当って会員の皆様 時節柄御自愛の上折角おはげみ下さる事を祈ります

尚どなたも御投稿の程願上ます

東京市外淀橋町柏木 一三一

奈良方

十四年十月三十日記

棕梠

第十号

大正十四年二月廿日
相互發達協會

目次

聖句の研究　奈良生
美しい星　望月麗子
AとBとの対話　奈良静か
聖句
詩と人生　飯島研一
トルストイの小話より　望月謙太郎
貧しさを思ふ　向井一郎
編輯者より

聖書の研究（五）

奈良生

イエスの家庭に就て（其の二）

イエスはヨセフよりもマリアの精神と有徳な人格による方が多いと思ふ、崇高な神の恩恵は救世主の母としてマリアに与へられて居た、然しながら私達はイエスの御降誕を判断すれば彼等は心の純潔であると共に神の御意志を充分に得て居た事を信ずるのである、マリアの詩によりて推理すれば、旧約聖書を熟知して居た事と其れによりて特別に深き感化を受けて居た事をも知り得られる（ルカ一章四六―五五）而してイエスの父母に対する関係、神とイエスとの関係に就ては聖書を繙く事が最も妥当であると信ずる（ルカ二章一九―五一、マコ三章二一―三一ヨハネ二章三、四）

イエスの家庭にはヨセフとマリアの外に四人の兄弟と其の末に二人の姉妹があって總はイエスより年下であった（マコ六章十三、マタイ一章二五）彼等の中の二人は初期に於けるキリスト教會に於て才能あり感化力に富める人であった　兄弟のジェームスは信仰なきユダヤとヘブライ人の中に在って最も尊ばれ兄弟ペテロとヨハネは共にエルサレムに於ける教會の「柱石なり」と稱せられた（ガラテヤ二章八、九）兄弟ジェームスとユダの二人は新約聖書の著者として有名である　然るに此等の兄弟姉妹並に母ですらイエスが救世主であったことを信じなかった（マコ三章二一、ヨハネ七章五）が其の事実は如何する事も出来ない、　ヨセフとマリアの家族は貧しいながらも独立はして居た　御存知の如くヨセフは大工で其れによって家族を支へ養って居た　然ながら其の當時労働はユダヤ中に尊ばれて居た　故に子供等にですら或る商賣を

教へて其の生活を区別して居た。斯くて人々は或程度に於ては三十年
其の中間にあったのであった
最後に私は一言して置きたいのはヨセフとマリアの系統正しく最も高くして
古き歴史を有しダビデ王の嫡流に属して居ると傳へられて居る事を
信じて貰ひたいのである（マタイ一章二〇、ルカ一章二七、三二、六九）。　未完

美しい星

望月れい子

おだやかな春の夜よ
まるいまるい大空の銀のまたゝき
そのなかの一番光る星の美しさ
なつかしい人の眞実と愛とを

信じてゐる心には
この不可思議な自然も
さうむごたらしいものとは思へない。

赤き実

絵硝子の赤き草の実
あかあかと入日に燃ゆる
あゝ、ふたりちぎりてすひし
戀の実よ
かくはあかきか。

（北原作　稿草より）

AとBの話

奈良静夫

Aを強者とし　Bを弱者とする。

この二人が人生と云ふ限りない大舞台での対話をきこう

A『俺たちは此の逞しい腕がある、俺たちはあの倉一杯の金がある　お前たちはそれが見えぬのか？　この二つが恐しくはないのか』

B『私は「終りまで忍ぶ者は救はるべし」と云ふ一語しか知りません、私はそれを信じられない事だけが恐しいのです』

A『俺は勝利の美酒に酔ふ』

B『私は弱い人達と夜通しなぐさめあいませう、少数の強者を友とするより多数の弱者と同情しあひ得ることを喜びます、ナポレオンは「俺は大きな失敗者だった」ナザレの

大ユイエスは世界の征服者だ」と云ひました」

A 『お前を殺したら又次を、次を殺したら又次を俺の仕事は多い、俺は希望に燃えてゐる』

B 『何時迄経っても弱者は尽きません、強者が二人よればその一人は弱者です、人は已に一人になれば寂寥を感ずるものです、強者は何時も強者であり得ません』

A 『唯勝てば宜いのだ、それで十分だ、若し万一俺より強者が出たら俺は死なう、死は総てを解決してくれる』

B 『死は総てを有耶無耶にする許りです、人は決して真実の悪人となりきることは出来ません、犯した罪にせめられて眠るより同情の涙の中に生きたいのです』

A『問答無益と知った時に強者のとる手段は唯一つである』

A、Bをたゝき倒す。　B笑みつゝ、

B『勝利者の悲哀』と云ふ言葉を知りませんか？、「終り迄忍ふものは救はれる」のです「最後に去に勝てり」とでも云ひませうか？、』……　静かに斉

爾曹すべての怨恨すべての詭譎また偽善媢嫉および諸の謗言を棄て今生れし嬰児の乳を慕ふ如く爾曹心を慕ふ霊の乳を慕ふべし（ペテロ前書二章一－二）

詩と人生

飯島研一

国木田独歩氏曰く「詩なき国は滅亡す、その肉は腐れその血は濁らん歌へよ国民詩は国のものなり」と然らば詩人多き国は繁栄するかと云へば否決してそうではない、そうでないとすれば或る人々はこの独歩氏の説に対して聊か過言だと言はる・かも知れない　然れども私自身をして言はしむれば氏の説は実に真剣であり氏の詩境がよくも此処迄徹底したものであると寧ろ驚嘆せざるを得なくなる。　独歩氏の詩は纔に七十篇に過ぎない、そうして彼れは段々と小説に転じて行ったのであるが彼れの小説は皆詩の凝固であることが肯定出来るのである

私は遺憾ながら詩の形式は余り知らない然しながら詩は

形の上に真の尊みがあるのではなく寧ろ一篇の詩をも書かぬ者で
さへ真の詩を真実に認識し得る者こそ私はこれを詩人であると
云ひたい　私は又詩を筆にすることさへ全然知らぬと云ひたい
位だが而し詩を完全に己のものにし詩に依りて自己を生かし得
る点に於ては決して他に劣ってはをらない、自信を持て居る　それで
も詩を認識し得る刹那〳〵に私は詩人であることを疑って居ない、
詩は吾人の境地から一日でも取去る事の出来ぬ命脈の一つである、
自己内心に此の詩の流が無くなった時が即ち吾人の肉が腐れ血
が濁り生命が亡びる時である　然らば詩の中に流れてゐる霊の美
しい力とはそも如何なるものなるか、との問ひに対して私は唯詩は
詩に依てのみ解かるべきものだと云ひたい否さう云ふより外に云

い表はす言葉がないと思ふ、

「歌へ歌へ！ 詩は爾のものなり」と

完

トルストイの小話より

望月謙太郎訳

アクスヨノフは黙って唯うなだれて居ます「貴郎の髪の毛が白くなった 夢は全く無意味でありませんでしたネー ネー貴郎 私にだけは真実の事を話して下さいな あの商人を殺したのは貴郎ではなかったのですか」とアクスヨノフの顔を覗き込みました「それではお前まで私を疑って居るのだね」と両手で顔をおほってすゝりなきました その時丁度獄卒が来て もう時間だから 面会人は帰へる様にと注意しました
アクスヨノフは やうやく顔をあげて妻や小供等に最後の別れを

しました 皆んなが帰へって ふと今 妻と話した事等を思ひ出、しました そして 妻迄が自分を疑って居るかと思ふと一入哀しみが増て来ます もう神様より外には自分の潔白を知って居る者がない、と思いました それからは もう上告の手続も嘆願もせず唯神に祈る事のみでした アクスヨーノフは とうとう判決が言ひ渡されました それは シベリヤ送りでありました それから二十七年間の長い年月をシベリヤの監獄ですごしました アクスヨーノフの波うって美しかった髪の毛は雪の様に白く ヒゲは銀糸の様に長くなりました 昔の元気のよかった 浮影は 今は彼の何処にも見出しません そして腰も大分曲って来ました 口数は極少なく 此所へ来て以来笑た事等殆んどありませんでした 唯時々かすかな祈りの声が

とすごい笑ひを浮べました　彼の不平の内に自慢の含まれた話しは尚続きました「ほんとの事を云ふとズット前なんか　もっと大きい仕事を為んだが　未だに知らずに居るくせに　ほんにつまらない事で送られて来るなんて馬鹿な話しさ」と話し続けました「こゝへ一度来て居るんだが　こんな所にぐずぐずしては居らなかったんだ　直ぐと御免をこうむったッサ」と一同を見渡しました「君は何処から来た人だい」と一人が問ひました「おれかい　ヴラヂヨーアの者で　おれの名はマケルともセミヨニッチとも云ふんだ」と答へました　アクスヨーノフはこの時静かに頭をもち上げました　そして「セミヨニッチと云ふ人　君はヴラドーアのアクスヨーノフと云ふ商人の家の事を知って居るなら話してくれないか」と言ひました
「あゝ君はアクスヨーノフの事を知って居るのかい　あの家の事ならよく

知って居るよ 皆んな 此頃では金が出来て大分都合がよさそうな様手だぜ 尤も親父はおれ達の様にこのシベリヤに来て居るそうだがどんな事をやったもんだか……… 時に お父、あん お爺之はどうしてこゝへ来たんだ叔う」と 聞ひ返へされました

未完

貧しさを思ふ日

向井一郎

ずぼんの ポケットには
「ときのこゑ」一部に代るだけしか金がない
それでも 私はいそいそと
よみさしの バイブルを
机にふせて 街へ出た

雨上りの澄んで明るい青空に
冷々と冬ざれの絹ずれの音がする
靴が小さくて踵がいたい
シャツがうすくて肌がつめたい
寒い冬だ
冬だ冬だ冬だ。

編輯者より

寒い冬が参りました　兵隊を思ふと忙しい寒さと
楽しい楽しいクリスマスを思ひ出します

皆さまも　さぞかし　御急がしい事と　御察し致します
今年は編輯の方も充分の事も出来ず誠に不本意でありま
す事を　皆さまに御詫び致します
来る年には出来るだけ努力して　だん／＼と発展させたいと希望
して居ります　何卒一層の御力添へと御投稿をおよせ
下さいます様　稿を終るに臨んで御願ひ致します
それでは　御気楽よく　御越年あそばされる事を祈り
ます

相扶

第二年一号

大正十五年三月一日
相互發達協會

聖書の研究　奈良富士哉

トルストイの小話より　望月謙次郎訳

感謝の心　石谷萬衛

聖書

冬の林にて　向井一郎

トマトの話　奈良靜夫

會員の消息　編輯子

編輯室より

聖書の研究（六）

イエスの律法の研究

イエスは年長ずるに従って知恵の発達は非常であった（ルカ才二章四〇―五二）ほんの子供であった彼れの知恵は少年たる青年を越へて其の知恵は成人として相応しいものであつた　家庭に於てはヨセフとマリアの可愛い、子供として一句も言へるや否や律法を教へ始めた（旧聖書申命記才六章六―七）而して両親は彼等の子供等に心と力を尽して此の律法を教へる様に神からの命令であったのである

使徒パウロは我が子テモテに書を送りてキリスト、イエスが幼少の頃の秘事について言って居る（テモテ後書三章一五）

イエスに物心のついてから旧約聖書を学んだ以前にヨセフとマリアが教へたと云ふ事は確かな事であると同時に特別な恩恵を神から受けて居った家庭としては当然であったと信ずるものである、然しながら彼イエスが Hebrew や Aramaic の律法を読む様に教へられた事柄何かは不確実である、若しイエスが Hebrew を知って居ったならば其の先生の總ての事共を研究し、秘蔵せられし神聖な事共を教へられた事が事実であるとすれば確からしく思はるゝのである

イエスは亦家庭の子供の一人として ユダヤ人会堂の参拝者の一人として教へられし事は疑ふ事の出来ぬ一事である、 未完

トルストイの小話より

望月謙太郎訳

アクスヨーノフは自分の不運を語るに忍びませんでした それで唯嘆息をしながら「おれも今年廿六年もここに居るがね」と言いました「一体どんな罪で送られて来たんだね」と重ねて尋ねましたですが、「まあ、いいさ それ相当の事をやったのでさ」と言いましたが 仲間の者等がアクスヨーノフの身の上話しをしました 何者かが商人を殺して其のナイフをアクスヨーノフの鞄にかくしたので アクスヨーノフは冤の毒にも不法な判決が與へられたのだと話しました　マケルセメヨニッチは是れを聴くとアクスヨーノフの顔をよく見ました そしてそして「ウン是れは不思議だ」と言ひました「是れは不思議だなあー！ 時におとっあん お前幾つになんなさる」と大変驚いたやうすです　他の囚人等は其様子を見

て「お前以前にアクスヨーフを見た事がお有りなのかい」と聞かされました
セメヨニッチはそれには答へずに「不思議だなあ ここへこうやって疑
き合せるのは不思議ではないか」と言ひました 何事もなく聴いて
居りました アクスヨーフは彼の表情でその商人を殺したものを知
って居るらしく思へて成りませんでしたので「お前はあの事件のあったこ
とを御存じかさもなければ私を以前に見た事が有るのかい」と尋
ねました「そうさあの当時はその噂で町中は持切りだったもの ツかなさ
い話が無いぢゃ無いか 而しそれも随分古い話しになったので今ではあか
当時の噂がどんな話であったかおれはす忘れて了った」「お前は誰がその
商人を殺した真実の犯人をツカなかったかかねぇ」とアクスヨーフは
聞ひました 問はれたマ生セメヨニッチは嘲笑ひました

「そりやつぱり靴の中から血の附いたナイフの出た男の仕業だらう……
「捕まるまでは泥棒ではない」と云ふ事を云ふぢや無いか 第一枕にして寝て居る靴の中へナイフがかくされてあれば 誰れだって其の者が犯人である事位はわからうぢあないか それにナイフを入れられゝは誰だって目をさますぢやないか」と言ひました 其れを聴くとアクスヨノフは此の男があの商人を殺した真犯人だなと思ひました アクスヨノフは立上つて皆からはなれてしまひました 其の夜は少しも寝れませんでした 彼れは自分の不運、不幸を シミじくと感ぜられました 良心が彼の心の中を支配しました そして其れが自分の目前にちらつくのでした 先づ妻の顔が浮び出しました 彼が市場へ立時の姿が今でも其の時のまゝである様な気がして思はれてなり

ません 彼女の家からは笑い声や話し声が漏れて来ます こんどは子供等が見えて来ました 一人は小さなクロークを着て 一人は母の腕に抱かれて居る 其の次には自分自身達の晩が思い浮ばれる若々しい元気に満ちた青年 それから あの部屋の土間で好きなギターを奏でた事 其の後まもなく捕へられた事 鞭で打たれた事 其の時 囲りに居た人々の顔や重い鎖の音や仲間になった囚人等の顔までが…… どうして總てをあきらめて了ったのか 廿年の永い獄中の生活に 同年位の者よりよほど老いた自分などを思い浮べて あゝ… もう自殺して了いたい程に彼れは非常になやまされたのでした

「あの男の仕業に違い無い」と アクスヨーノフは思ひました 彼れは口惜

しくて口惜しくて堪りませんでした 自分はどうなっても復讐してやらなければと思ひました 而し彼れは一晩中祈り続けましたがどうしても心が静まりませんでした 晝間の内もアクスヨーノフはセミヨニッチに近寄らない様になりました

こんな風にして半月ばかりの日は過ぎてしまひました アクスヨーノフは其の間眠れない夜が幾夜が続きました 彼はほんとうに情なくて、どうしてよいかわからなくなってしまひました 或る夜の事でした 眠られないまゝにアクスヨーノフは監獄の内を歩み廻りました 高い天井に掃るされたかすかな燈でよくは分らなかったが 足許へ泥の塊りがころげて来ました それは囚人等の寝台になって居る棚の下からでした 立止まって見て居ますと その下からセメヨニッチが這ひ出して来ました

そして驚いた様子で アクスヨノフの顔を見ました アクスヨノフは見ない振りをして行き過ぎやうとしましたが セメヨニッチは アクスヨノフの手を抑へました そしてセメヨニッチは「おれ達は今かべの下へ、抜け穴を掘って居るのだが 泥は皆んな長靴に入れて 仕事に行く途中で監守の目を盗んでは捨てゝ来る人だ」と話し亦「おぢいさん！ おぢいさん お前も静かにしないといけないぜ 黙って居れば一諸に連れ出してやるが くだらない事をしやべると おれは打殺されてしまふんだぜ 尤も其の殺される道連れにや お前も連れて行くから さう思ひねえ」とおどしつけました

アクスヨノフは其の仇の顔を見ると怒りにふるへました 彼は手早く手を引き込めて言ひました「おれはもう逃げやうとは思は無いし お前は

お前を今更おどさなくとも　おれは　お前に手前に殺されて終ったも同様では無いか　お前の事については唯神様の御指図に従ふまでの事だ」と言いました

（次号で終ります）

感謝の心

石谷義衛

暫く御無沙汰を致しました。御機嫌は如何ですか、私も幸無事に暮して居ります、基督教會のバイブルクラスや禮拝にも行って居ります。「棕櫚」をまた御送り下されありがたうございます、私は「棕櫚」といふ冊子それ自身よりも私を友の一人として下さる皆様の御心をありがたく思ふのです、私は私の感謝の心を受けて戴きたいのです。

人の心といふものはわかる様でわからないものです感謝すべき時に感謝しないで居たり、又感謝する必要のない時に感謝したりすることもあるものです。けれどもさまざまのことがなされる動機を知ることが出来れば天地の間に美しいことを見ることが出来ると思ひます。唯不信が神の恵を空しくして居たと知る時は慰と力とを得た時であります。読み物は色々あります。聖書もあり、外の文学書もあります。多くの聖書を印刷して萬国の民に分つことは易く、一人の神の子供を産むことはむづかしいのです基督教出版物に寄稿することは易く、神の御旨を行ふことはむづかしいのです。基督教に関する諸の印刷物の多くは売物とせられて居ります。そして福音を売物とする精神は美しい、

精神でなされることまで誤解があっても神の御業は進んでくと思ひます、神がキリストに與へた力は卋の力よりも大きいからであります、自ら進んで悲しむ者の友となり、弱き者の助とならんとする人々に神の祝福ゆたかならんことを祈ります。

聖句

神の善き言葉と來卋の能力とを味ひて後墮落する者は更にまた自ら神の子を十字架に釘けてさらし者とする故に再びこれを悔改に立返らすること能はざるなり。

（ヘブル書六章五－六）

冬の林にて

向井一郎

冬ざれた　野はづれの
疎林に、うづつんだ落葉をふんで
ひとりゆけば
枯葉に枯葉がふれて
かさ　かさ　かさかさ　と
かすれた音が
小春日のしゞまにする
丘にかくれて屋根が見えない
省線電車が
ゴーゴー　と音して過ぎたあと

またかさかさとする
この音のさびれが
やるせないけふの思ひに
痛く哀しく冷たくなれる。

トマト雑話

奈良静夫

トマトは茄子科に属してゐて、新しい人はこれをトメトと発音して居る、内地では赤茄子、柿茄子など、呼ばれ、ラブアップルと洒落た英語もある、原産地に就いては学者によって説があって或は印度であるとか云はれ或は　メキシコであるとも称されているが、南米ペルーの海岸に自生する桜桃形蕃茄がその

原種をなすものであると云ふ許から最も有力な原産地としては目下ペルー説が稱へられてゐる。
トマトが我国へ入ったのは相当古いものらしく今から二百余年前貝原益軒の著した「大和本草」にその簡單な解説のあるのを見れば、その以前に南洋か支那から傳ったことが知られる。然しあの厭な臭ひと毒々しいまでに赤い顆を着けてゐるために、之れを食用として栽培したものは至って少く、唯好奇的に庭の一隅か、畑の片隅に植えてゐたに過ぎない、之れがとても美味いもので洋食の後での風味は得も云はれぬ、文化生活にはなくてならぬものであるなどゝ大仰に効能を述べて宣傳され出したのは ホンノ近年のことで一年目には口に入れて

吐き出しトマト畑など見向くも厭な感じがした人でも、所謂文化生活者の凄い効能書に二年目には少々食べるやうになりトマト畑に立って累々と玉の様に房生りになってゐる實を見て賞める丈のユトリが出来、三年目にはトマト畑を素通り出来ぬ程になり三つも四つも続けざまに食べて了ひ、自分も作って見るやうになり、四年目にはトマトを材料にした加工品が欲しくなってさがし廻り、自らも畑から採った赤い大い顆でジャムやケチヤップを作って「一家團欒の食卓にトマトがなければ、それは余りに寂しいものだ」など云って大のトマト黨になって終ふ。

見るからに涼しい洋風の食卓に、赤々と熟したトマトの

二つ三つが載せられてあることは、何人とも云へぬ快さを人々に与へるであらう、外觀が美的に出来てゐるばかりでなく、その食用効價に於ても「トマトの家に胃病なし」と西諺にある程で消化を助け、食滞を下げ、脂肪の消化を助けて肝臓、痲痺を治し血行を順調に尿を利すなど、丁度賣薬の効能書の様ではあるが事実は之を雄辯に語つてゐるから如何することも出来ない。

未完

會員の消息

熊谷たまの氏　昨年クリスマスには廿名近くの人々打つどひお祝せられしとの事

中川工司氏　御家族の方が逝去なされし由哀悼に不堪

奈良静夫氏　昨年十二月末 大阪に於て 芽出度 結婚せられました

岩田省三氏　此度 四谷区新宿 三ノ四二へ転居せられました

小林桂子氏　昨年十一月 瀬戸家へ嫁がせられたとの事、悦ばしき極です

山田猛氏　昨十二月一日御病気の為 除隊せられましたが 只今は御本復して 最近大阪の某新聞社へ御入社せらる、由

鈴木學氏　成績優秀にて 伍長勤務上等兵に

なられたとの事 同氏としては当然
の事なれ共よろこび堪へません

藤原武夫氏

今度職務上にて釧路市へ転任せ
られしとの事、追って住所は御報申
上ます。

◎編輯室より（発行に際しての御詫び）

新年号も発行せぬ内にもう桜もほゝ笑む頃となりました
會員の皆様には別だん御変りもございませんか、
扨様相も斯うして二年の歳を重ねる事が出来まして誠に
嬉しく思って居りますしかし是れ皆様の御指導に依る事と深く

感謝いたして居ります、今年こそは「きっと」と思って居た事も又々斯うして自分の勉強等の為に編輯にたづさわる事が出来ず意外にも延引いたしました事を幾重にも御許しを願います。

次に私達信者の為めに誠に喜ばしい、音づれが有りました
それは先日末日聖徒イエス、キリスト教会の本部に在すテーラー氏（日本傳道部創立者の一人）より日本信者の要の為め御辞を御尋ねの書状を受取りました。
詳しい事は次号で発表致しますが不取敢皆様に先ずだけ御知らせ致して置きます。

一九二六、三　　奈良生

棕梠

第二年二号

大正十五年五月十日
相互發達協會

目次

聖書の研究　奈良富士哉
一つの考へ方　山出虎雄
聖句
トマトの話　奈良靜夫
トルストイの小話より　望月謙太郎
テーラー氏よりの通信　奈良生
會員の消息
編輯室より

聖書の研究（七）

奈良富士蔵

イエスの律法の研究（三）

イエスが学校で教へを受けたと云ふ事は明白でない、何故なれば其時代に学校があったかどうかと云ふ事が問題である、歴史家ケイムは西暦六十四年頃には既にあったと言ふし、スカラーはキリスト生存時代にあったと発表して居る、然しながらナザレにユダヤ人会堂があってイエスが其処に参堂し律法を読み、或は聴いた事は疑いない事である（マコ傳六章二節）イエスが十二才の時会堂にあって先生達の仲間入をして彼等を驚かさせた事は聖書で御承知の事である、或るナザレ人の先生が彼れイエスとヘブライ語を教へたとの事があるが其れは勿論確実ではないのである、

イエスが旧約聖書を確実に理解する為めにユダヤ人会堂に行き一
自身の為めに根気よく熱心に其れが了解に勉め、綿密なる智
識の蓄積に専心し、且そう謂ふ霊的律法の了解には邪心を
さけての研究なるや言ふ迄もない事である、
イエスの幼少の時代には両親は神の御聖旨によって善に導びき教
へたのである、其処で知らねばならぬ一事はイエスがヘブライ語
の智識があるばかりでなくギリシヤ語の智識があった事で其れ
はシリヤやガリレーを通過した時多くの人々にギリシヤ語を以て
話された事によって知られるのである、其当時紳士としての交際の
場合の通信文はギリシヤ語を常に使用したとあるがしかし其れはた
しかであるかどうかは疑ふ余地があるのである、

未完

一つの考え方

山出虎雄

□真理は常に普遍妥当である。

□茲にわたくしは宗教の社会性（若し云ひ得るならば）を考える、真理は常に宗教の内に在る　従って宗教には普遍性があり妥当であらねばならぬ。すなはち社会性を考えることが出来る。宗教の社会とは宗教本来の性質から考えても自明のことの様だ　然り宗教は人類の魂に於いてのみその存在価値を有する、人類即社会の為にのみ宗教は存在する、従って宗教の社会性は自ら明だ

□社会性を有する宗教とは宏壮華麗な寺院と形骸的儀式及組織を除いた真理なるもの即霊魂の糧をいふ、難解と美辞の羅列に過ぎない、聖典はそれではない。純一な霊魂の礼

耳がこれである。荒野より来る言葉に耳を傾むける心がこれである

口神は内在する、われらの心のうちに在る、信仰が与へらるべきものでない、所以はすなはちこゝにある、

口宗教は知的存在ではない、理性の科学の産物ではない、宗教は霊的存在である、常に霊魂の産物だ、人類に於いて霊は必在である、従って宗教は神は必在である、茲に宗教の社会性を結論することが出来る、

口宗教の社会性は宗教それ自身だ、社会性を有するが故に存在価値がある、

口今日の宗教は全く無定力であるかにみえる、これ、社会性が薄れて来たからである、而も科学に完膚なきまでにたゝき潰ぶされた

宗教は今や全く科学に征服された。十字軍的強情はいづこにも見出さるべくもない。世界は滔々として科学の大流のうちにある

何の故であるか。　科学は霊魂の糧であったからであるか。

否！　否！　科学は魂の慰めでは決してあり得ない。何となれば科学は知的存在である。人類の精神或は理性即物質の産物であるからである。　科学は無知より来る迷蒙を打破することが出来たけれども遂に霊魂の慰安者ではあり得なかった。　然るに今日の宗教は科学の忠実な追従者である。　何の故であるか。

科学の発達は所謂宗教家をして極度に不安ならしめた　而て科学者をして異端者視して能ふ限りの圧迫を加へたが其の及ばざるを知るや　宗教を知的存在たらしめ以て科学に対せんとした

茲に破綻が発した、宗教家は禍いなるかな。

宗教はよく知的存在で有り得るか、もし知的存在たり得るとせば最早そこに宗教は無い。宗教は神は霊的存在であるからである。　霊的存在と知的存在とは本質的差異がある。こゝに気付かざりしものは禍いなる哉。宗教の没落は当然である。

研究室と会堂と、法典と聖典と、軍隊組織と教会組織と支配と摂理と等々

相対立するものみな知的存在たらざるはない

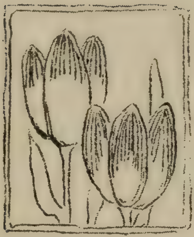
再び云ふ、宗教が知的存在たらんとするときは既に宗教としての存在価値を失ふ。知的存在たらんとした今日の宗教の衰微は必然の結果だ

ロ われは眞理を求む、 新しき宗教を求む

われらの宗教は靈的存在であらねばならぬ
宗教から寺院を、聖典を、組織を斷て！
荒野に於ける預言者へと行け！
そこにわれらの神 われらの宗教があるであらう。

終

聖



句

キリストは肉にてあらはされ、
靈にて義とせられ、
御使たちに見られ、
もろもろの國人に宣傳へられ、
世に信ぜられ、
榮光のうちに上げられ給へり。
（テモテ前書 三ノ一六）

トマト雑話

奈良静夫

トマトにヴヰタミンが多分に含まれてゐることは、セールマン氏及スミス氏両著の「ヴヰタミン論」や高橋氏の著書によつても明かで両著に多少の相異はあるにもせよ、ヴヰタミンのA、B、Cが共通に含まれてゐることは左表によつて知る事が出来る

トマトの状態	ヴヰタミン A	ヴヰタミン B	ヴヰタミン C	備考
生顆ノモノ	++	+++	+++	セールマン氏及スミス氏
鑵詰ノモノ	++	+++	+++	〃
乾燥セルモノ	++	+++	++	〃
生顆ノモノ	+	+	+++	高橋氏

乾燥セルモノ	｜	十	十	十	高橋氏

然も之れ程効果があり、風味があり栽培上の興味が盡きぬトマトも、一般蔬菜類の消費量と比すると眞に哀れなもので、左表によっても知られる通り一人一ケ年の消費量は僅かに六匁に過ぎない。（森本厚吉博士書に據る）

種類	總消費量	一人一年消費數量	一人一日消費類量
茄子	九〇、六四四、七一九〆	一、八九一〆	五匁
南瓜	七八、七八四、七三三	一、六四六	五
胡瓜	四九、〇六三、六六六	一、〇二五	三

西瓜	二一、二三九、五四七	〇、四四四	—
甜瓜	一〇、八三三、八九九	〇、二二六	—
トマト	二六三、八八九	〇、〇〇六	—

トルストイの小話より

望月謙太郎訳

そのある日囚人等は作業場へ連れて行かれる途中で長靴から土を捨てるものゝあるのを監守が見付けました。それで監守は直ちに捜索されました　その結果抜穴が出来かゝつてもう少しで人間の通れる様に成つて居るのを発見されました。典獄は早速囚人等を集めて取調べましたが　誰も知らないと言ふのみでした　セメヨニッチがやった事を知つて居るものでも　知らせれば　打殺される

事を知りますから、誰れも言ふ者はありませんでした　終に典獄はアクスヨノフに向って尋ねました「お前は正直者だ――　監房内の事はよく知って居るから分るだらう」と問ひました、マケルセメヨニッチは全然無関係な様な顔で典獄の顔を見て　アクスヨノフの方は余り見ない様にして居りました、　アクスヨノフの足や手はふるへました　そして暫くの間は口がきけませんでした「自分は如何して自分の仇をこう知ってかばってやるんだらう――　おれの苦しめられた丈けの返報をしてやらうか知ら」と考へました「セメヨニッチがやったんだと言へば決っと彼奴は笞で殺されて了ふに違ひない、而しそうした処で別段何も良い事は起らないんだ」と思ひました、典獄は再び言ひました「老人よ　何人が壁の下へ穴を掘ったか真実の

事を話して呉れ」と申しました、アクスヨノフはセメヨニッチの顔をチラと見ましたが「旦那、折角で御座いますが申上られません何故なれば其れは神様の意志に逆きますから」ときっぱりと断りました「如何様に御尋ねになりましても申上げ兼ねます」と附け加へました、其れで彼はいくら尋問しても其れ以上は話しませんでした、それで其の事件は一時其の侭に成りました、　其の夜アクスヨノフが寝台に横になって少しうと〳〵としかけた時でした、忍び足で彼に近寄って来た者の有るのに気が付きました　暗をすかして見るとそれはセメヨニッチでしたアクスヨノフは「お前は是れ以上おれに何の用が有るんだい一体何をしに来なすった」と尋ねました、マケルセメヨニッチは無言で

した　それでアクスヨーノフは起き上りながら「何用があるか知らないが向ふへ行き給へさあ早く行くがいゝ」と言ひました
セメヨニッチは寝台に手をついて首を上げました　そしてかすかな声で
「ドミトリッチ、アクスヨーノフ　許して呉れ」と言ひました
「赦せって何んだい」と向ひ返へしました　「あの商人を殺したのは私です　あの時あなたも殺して終ふと思ったのですが外で音がしたので　そのナイフを靴の間に押し込んで窓から逃げたのです
アクスヨーノフは只黙って聴いて居るより外ありませんでした、
セメヨニッチは床の上に膝まづいて「アクスヨーノフ　どうぞ神の為に免して　私の罪を赦るして呉れ　明日になれば皆んな自白して了ふ心算だから　すれば　君は放免になる　そして一日も早く

家へ帰へって下さい」と言いました、 アクスヨノフは言いました「私は廿六年間苦しみ通して来た今更放免になっても何処へ行かう妻は死んだらうし小供等も私を知って居るものも有るまい」マケルセメヨニッチは床にうつぶして頭を揚げ得ませんでした「アクスヨノフ 許して下さい獄卒に笞で打たれた時の痛さは今の苦しみに比すれば何んでもなかったが お前にそう言はれると何んと詫びてよいやら分らない後生だから救すと言って呉れ」と頼みました、そしてすゝり泣の声さへも聴へました、 セメヨニッチが泣き出すと、アクスヨノフの目も泪が一杯でした、 アクスヨノフは言ひました「セメヨニッチ 神様がお前を救して上げるでせう、お前を今日迄 憎んで居た 私こそ お前より数倍重い悪人なのだから」と

是れ丈け云ふと何時になく心持が軽くなりました そしてもう何人にも言ふ事もする事も有りませんでした 只その最後の来るのを心静かに待つのみでした、

セメヨニッチは アクスヨノフの止めるのも聴かずにとうとう自首して来て一切の罪状を自白しました、それで アクスヨノフの放免の通知が届いた時には アクスヨノフは 監房のベッドの上に冷たくなって横って居りました

終り

＊　＊　＊

毎月号外の トルストイの小話は随分長くありましたが 実に何人となく敬虔な心持を起させます 私は皆様始めの一から終りまでもう一度読んで戴きたいと思ひます 亦 次号から同氏に書いて貰ふ事に致します

編輯子

テーラー氏よりの通信

同一の書面が大阪、札幌、東京とに参りました 此処に其の内容の大体を御知らせ致します。

愛スル兄弟ト姉妹！

貴殿ハ私カラノ手紙ヲ受ケテ驚カレタ事デセウ蓋シ私ハ日本伝道創立者ノ一人デ其ノ働キハ私ニトッテ大ナル幸福ノ時代デアリマシタ
先日大管長カラ日本ニアル聖徒等ノ事ヲ尋ネラレ其ノ二三ノ聖徒ニ通信セヨトノ命ヲ受ケマシタ、管長ハ大阪ニアル桂、渡辺、鈴木大橋兄弟等ヨリノ書論並元日本伝道部長ロバートスンハ札幌ノ熊谷姉妹ノ書論亦ジョセフ、エッチ、ステンプソンハ東京ノ奈良兄弟カラノ通信ヲ私ニ手ノ渡サレマシタ　私ハ此等ノ手紙ヲ拝見シ非常ニ確キ信仰ト純潔ナル精神トニ感動致シマシタ（中略）　私ハ現在聖徒等ノ

淋シサヲ知リマス 然ナガラ父ナル神ト聖霊ハ 求ムル兄弟姉妹等ノ上ニ常ニアル事ヲ信ジマス、

愛スル兄弟姉妹ヨ！、 日本伝道部ガ閉鎖セテ最早二年ニ垂々トシテ居リマス、私ハ其ノ間ニ起ッタ種々ナル事件ニ対シテ驚クモノデス（中略） 東京、大阪、札幌、甲府其ノ他ニ散在シテ居ラルル聖徒等ニツイテ御知ラセ下サイ、 貴殿等ハ如何ナル方法デ団結ナサレマシタカ、 其ノ中央本部ハ何処ニアルノデスカ、 私ハ聖徒等ノ家庭デ時々集合サレル事ヲ聞キマシタ 其ノ集合ノ中心ハ何処デスカ、（中略） 宣教師ノ退去シテ以来 固キ信仰ヲ以テ熱心ニ神ノ道ノ為ニ働イテ居ラレル者ハ誰デスカ、誰ガ真ト信仰トヲ持チ 一部ノ指導者トシテ 聖徒等ノ総デカラ認メラレテ居リ

マスカ、若シ貴殿等ノ内ノ一人ガソウデシタナラバ私ニ其ノ姓名ヲ御知ラセ下サイ、ロバートスンガ本部ニ持参シタ聖徒名簿ニヨレバ現在一四九名ノ信者ト三三名の祝福セラレタ子供ガ居ラレル事ニナッテ居リマス 其ノ聖徒等ハ何処ニ生活シテ居ラレマスカ、貴殿ハ其ノ總テノ姓名ヲ私ニ知ラセル事ガ出来マスカ、私達ハ、日本ニ於ケル聖徒等ニ對シテ如何シタラヨイデセウカ 其レニツイテハ御互ニ相談下サイマシテ如何シテ貰ヒタイカ、或ハ如何ナル方法ヲ以ッテシタナラバ私達ガ聖徒等ニ御力添ヘスル事ガ出来ルカヲ如何云フ風ニシテ貰ヒタイカヲハッキリ私ニ御知ラセ下サイ、サスレバ私達ハ具体的ニ御助ケスル事ガ出来カト思ヒマス（中略内容大作）

先ハ常ニ神様ノ御恵ガ愛スル聖徒等ノ上ニ限リナクアラン事ヲ祈リマス。

◎會員の消息

木村昌治良氏は 三月上旬並四月下旬の両度商用の為上京訪問下さいました 其の都度大阪の状況を御知らせ下さいました、

藤原武夫氏は 北海道釧路市浦見町三丁目(谷本方)に転居されました

望月ふい子氏は 東京都下上荻窪六の六番地へ転居 されました

奈良省三氏(号 鹿仙)は今回 目出度も聖徳太子奉賛展覧会へ出品入選されました 亦同氏は 山梨県甲府市にて書個人展覧会と作品頒布会を催しました 御奮闘を祈ります

◎編輯室より

近いうちに米国本部に居られるアーネスト、ニイラー氏に御返事を出す事に致します 御承知下さい 追て其の内容は紙上を以て御知らせ致します 編輯の終りに皆様の健在を祈ります (奈良生)

棕梠

第二年三号

大正十五年六月卅日
桐丙学部談会

目次

聖書の研究……奈良富士哉
私の知る貧乏……田中清
トマトの種類……奈良靜夫
金言二題……
或る日の手紙……山出虎雄
イエスとユダ……藤原武夫

以上

聖書の研究（八）

奈良富士哉

自然の研究

イエスは自然現象其のものを熟考し而て自然に対して最も深き観察者であった事である 即ち自然を層として引出したる多くの実例或は亦箴諸言は自然的現象に基礎して教へられた多くの事実等 其れは福音が明白に之れを証明して居る

彼は目に見えざる世界と目に見える世界との間に異体同質を見たのである、そして路傍に野に 彼が観察せる 神の王国の其の真髄を教へたのであった、

自然は 彼の精神を意味し、指導者であり、神の御性

質を語ってゐる、彼イエスは野に山に谷に咲く美しき百合の美に感嘆をもらすが ソロモンの如何なる栄華たりとも其の花の一つにも及ばないのである（マタイ六章二八節―三〇節）

イエスは神は空に小鳥をたくはへ飼養し給ふが神の許しなくして其の一羽たりとも地に落ちる事が出来ないものである事を教へてゐる（マタイ六章二六節、十章二九節）亦太陽の昇る時其れは吉とある善きものをも悪しき者をも照し、降雨の時其れは正しき者正しからざる者にも降りかゝると、其れ等の事共は神の広大なる愛を示してゐるのである（マタイ五章四四五節）（未）

私の知る貧乏

田中清

貧乏をして居ると云ふ事はいゝ事かも知れない、貧困にして富豪になりたるものあり、倒れたるものあり、人間は知らない中に此度二種類の性格に分けられてしまふものだ、

一方は何時の間にか癖んで貧乏人根性を出して憂鬱になり厭人的になって世を呪ひ自分の不運を慨くタイプに陥入る。

それと反対に苦しめば苦しむ程、人や運命から虐げらるれば虐げらるる程勇猛な努力を奮ひ起して元気よく苦難と戦ひそうしてそれを征服し

て自分の道を造り出すタイプがある。
一方は貧乏に負けたのだ。
一方は貧乏に勝ったのだ。
貧乏の為に磨かれて一層強い性格になったのである、
聖書に
　貧困なるものは幸なり
　御言葉を聞き得べければなり
貧乏な事を悲しむ必要はない、
神の名誉に対する試練であるからである。

以上

トマトの種類

奈良靜夫

トマトには種類が澤山あって、普通見受られるのは赤色のものであるが黄色のものもあり一個百匁以上のものがあるかと思ふと、葡萄の房状をして一個二匁にも達せぬ位のものさへある。顆色の赤や黄、顆形の大小円扁などで各々名称を異にしてゐるから今次に一般向の品種を擧げてその特徴を記することにする。

一、ポンデローザ

朱赤色の中生の晩種で顆実は頗る大きく、多少角張っているが扁圓形を呈してゐる、大きなものは百匁以上のものも尠くない、　味は余り美味の方ではないが肉量が多いから食卓用とするよりもトマトソース製造用に適してゐる、頗る豊産であるが病虫害に罹り易い欠点がある。

二、アーリーヂュエル

極早生、中顆、深紅色で形状は正しく、色澤は美麗で光澤があり肉は緊ってゐて生食にもソース製造にも一番多く使用されている種類である。

三、ミカド

中生の大顆で鮮赤色を呈し顆形は扁円で皺を有し、極めて豊産で一反歩の收量は一千二百貫に達する。栽培も容易で生食にもソースの原料にも一番経済的な優良種として歓迎されてゐる。

四、レッドチェリー

赤色種の内で一番小粒の品種、直経五分内外で房成りに一枝に十数顆を着けるから鉢植栽培に適して居る。風味も佳良で生食用としても悪くない種類である。

五、エロープラム

レッドチェリーのレッドを黄に置換へた丈で形は至って小さく、房状を呈して居るから鉢植にも花瓶にも

観賞用として観迎され、赤色の種類に比して甘味もあり臭味がないから初めての人には食べ易い種類である。

六、ゴールデンクヰン

英国サットン商会の改良種で晩生ではあるが收量は多く、顆は鮮黄色で甘味は頗る多い。中形で皺はなく生食用として随一のものである。

金言（二題）

絶潔なる愛情を以て汝の家庭を満たせ（クーパー言）

天は人の上に人を作らず（ミルトン言）

或日の手紙

山出虎雄

□友の手紙は謂ふ
「余り愉快でないらしい君の生活
一体どうしたのだ
わたしは思はずギクリとした

□近頃のわたしは
一切を否定したき心境だ
見えるもの
觸れるもの
感じられるもの

□

すべてが憂欝なんだ

春だー！　けれど

この私には真に悩ましい春だー

花よー！　花よー！

名残りなく散れ

□

青葉よ

疾く濃くあれ

かゞやかしい真夏の太陽を

わたしは憶ふのだ。

イエスとユダ

藤原武夫

私が是れから書かうとする事は或る本にあつたのを其の優美味ある問題として皆様に読んで戴きたいのです 勿論小説として書れたものですが 其の中にはかなり考へさせられる事共が澤山出て參ります 何卒 あなたがたの様にホントの キリスト イエスを知つて下さい

イエスと十二人の使徒の上に春の夜が深く垂れ下つてゐた 十三夜の朧月は 棕櫚樹、橄欖、無花果の木々を銀鼠色に燻らせてゐた、 肉桂の香、沈丁の香、空気は匂ひに充されてゐた、 十二人は歩いて行つた、 小鳥が塒で騒ぎ出した その足音に驚いたのであらう、と夜風が吹いて来た 暖い咽る様な夜風であつた、 ケロデンの渓流、ゲッセマネの園、

そっちの方へ流れて行った。エルサレムの方へ流れて行った、
月光は黎明を思はせた、十三人の顔は白かった、そうして
蒼味を帯びてゐた、　練絹の様な春の靄！　それが
行手に立迷ってゐた、イスカリオテのユダばかりが一人遅れ
て歩いてゐた、
ユダがイエスを売ったのはマグダラのマリアの美貌ばかりに
誘惑されたのではないのであった、　彼れはイエスが疑はしく
見えた、イエスに疑念を挟んだのは可成り以前からの事で
あった、ユダれはイエスが傲慢に見えた　それが不愉快で
ならなかった、
女の産んだ最大の偉人バプテズマのヨハネが礼を尽して二人

の使者をよこした時イエスはかう返辞をした
「瞽いた者は見ることが出来、跛へた者は歩く事が出来、病める者は潔まる事が出来、聾いた者は聞く事が出来、死んだ者は復活する事が出来、貧者は福音を聞かされる、從に来る者は幸福である」と
其の時ユダは斯ふ思った
「これは途方もない傲慢な言葉だ假りにも予言者と称する者が何といふことを云ふのであらう」
然しユダはこんな位で決してイエスを裏切ったのではない
浮薄な感情のためでなく、もっと深刻な思想のために
彼はイエスを裏切ったのである

棕梠

第二年四号

大正十五年九月一日
相互発達協會

目次

聖書の研究　奈良富士哉
最初の聖書は如何なる国語なりや　藤原武夫
聖句
詩集「桜草」より　望月れい子
トマトの栽培　奈良静夫
イエスとユダ　藤原武夫
編輯室より

以上

聖書の研究（九）

奈良富士哉

自然の研究に就て（其の一）

イエスは自然の現象を基礎として常に適切な教訓を教へたのである。新約聖書にもある如く燦然たるの譬を読んで見る時何等根據のない一片の譬として看過する事の出来ない事を知り。イエスが如何によりよく自然をとらへて居ったかがわかる（マタイ伝十三章十九節より三十八節参照）大自然は精密に思慮深く観察せられる。イエスにとっては神秘であり大なる教訓であったにちがいない、

故に彼は人が風は何処より来りて何処に行くを亦種は発芽し生長し穀となる道を知るにも関らず彼は其の理を知って居った事である（ヨハネ三章八節、マルコ四章二十七節）

イエスが私達に御教へ下された種々の事実は譬は常に驚くべき自然の大宝庫からたへず廣く引出し彼は寛大な将廣凡な愛の眼をもつて天と地と人を見つめて居た事を聖書を繙く事によつて知り得るのである。私達は彼は大自然のあらゆる働きを洞察し深く精神的に天父の思想と希望とを満したのであつた。

最初の聖書は如何なる国語なりや

藤原武士

、、の博士達は人間が初めに話した所の国語は以前に申上
ニュメロ、アカデヤン語であると思って居りますが或る学者達は
多分バベルに於て言語の混乱する前に用ひた一つの言語であらう
と述べて居ります 即ち アダム、エデン、サッバッス 等と云ふ語はア
ブラハムの時代まで用ひられた 其後は全くすたれて大学に於ての
み研究せられたそうです で 其時の人々は ネブカデネザル王の時代
までセミチックバビロンと云ふ言語を用ひたやうであります、
世の博士達の考へに依れば（創十二・一ー七）アブラハムは神の命令に
従ふ為に カルデヤのウルより出で、河南の地に住みました故 其故郷
の言葉を棄て、河南人の言語を用ひて居りましたが アブラハムの子孫

なる猶太人はそれより数百年の後に至り神の刑罰に由て奴隷となりバビロンに永く囚はれて居りましたから段々と其ヘブル語を棄て、カルデヤ又はアラマイック語を用ふる様になって遂に紀元までに至ったのです併しアブラハムが河南の地に行って用いた河南語は後にヘブル語と唱へられた様です即ち……(賽十九・十八)河南の方言を語り云々の句はヘブル語を指さして居る様です、又英国ロンドン博物館へテルエルアマルナより持来った碑文はアブラ公より後凡そ四百年頃に書き、記したもので カナン即ちヘブル語で書いてあります 例へばラバンが記念碑を造るに石の柱を立て、之を……(創卅一・四十七)……エガルサハドタ即ち證の坵……と唱へました如きは全くカルデヤ即ち アラマイック語であります、又ヤコブが河南に居りました故に

之と……ギリヤデ即ち證の堆と言へましたけれど此の二つは同じ意味で一つはカルデヤ語で一つはカナン語即ちヘブル語であります。（未完）

註。続いて書く筈でしたが事情がありまして中断致しました事を御許し下さい、今度からは休まずに書き続けるつもりです、内容に就て解りにくい所があると思ひますがどうぞ御熟読下さいます様御願ひ致します。

聖句

生命を愛し、善き日を送らんとする者は、舌を抑へて悪を避け、口唇を抑へて虚偽を語らず、悪より遠ざかりて善を行ひ、平和を求めて之を追ふべし

（ペテロ前書 三章 十・十一節）

詩集様草より　　　望月凡い子作

冷たくなつても肥えた頸に
幾度かふれて見つゝ、
ふさやかな前髪を
幾度かさすり見つゝ、
花と人形にかこまれて
柩の中にうつむいた
童女のおもよ。

おはり

トマトの栽培

奈良静夫

トマトは温暖でやゝ乾燥の気候を好み茄子より稍々低温度に抵抗することが出来るから更に高緯度の地にも作り得られ、排水のよい肥沃で多少の湿度を含む土地であつたら何処でも能く生育する、小石混りの砂質壌土などには有機質肥料を加味すれば最も可い、酸性には弱いものであるから斯る土壌には植付前消石灰を反当十五メ位施す。 連作には小規模に庭を利用して栽培するときには大した害もないが販売用とか製造の原料に大きく栽培するときは反当の収量に影響するから、四五年向は同一地に作らぬ様に輪作法を講ぜねばならぬ、

花咲いて菊作らふと思ひけり
で烈日の下青葉の蔭に道化役者の頬を思はせる様うに赤く熟し切つたトマトを見たとき『自分も作つて置けば良かつた』と今更託つ人々のためにトマトの播種から其後の手入管理を、述べることにする。

先づ種子は最も信用ある種苗店から発行するカタログによつて各々人の嗜好に従ひ、大顆で早生のものとか、黄色で淡白な種類とか、珍奇な新種とかを選んで種子を求める。種子は極く廉価なもので一勺二十銭から三十銭位なものである。

種子は茄子苗を作る時の様に二昼夜位浸漬してから素

焼の鉢か底に多数の穴をあけた密柑箱か、或は冷床に四月上旬頃播くと十日内外で発芽するから密生した処は間引き甲析葉が充分開張してから三寸平方位に移植し、本葉が三、四枚出た頃五寸平方に一本の割合で植え更へるのである、この間引と移植とは苗仕立に一番大切なことで「苗は半作」と称で云はれてゐる通り苗時代を強健に過させぬと、将来に影響するから細心の注意と周到の処理とが肝要である、

本葉が元気よく七、八葉出て、高さが八寸から一尺位になったならば本畑に定植する、植付の場所は前以て充分に耕しておいて三尺幅の畦を作り、畦の中央一直線に深さ一尺五寸位の溝を掘って其中へ反当堆肥二百貫人糞尿五十貫過燐酸石灰八貫草木灰八貫位の割合で肥料を入れて土を覆ひ元の通りの畦を作り株間を二尺にして一畦に一條植とする

苗床時代を健全に過して来た苗ならば定植して一本立になっても面白い程よく延び、目に見える位よく肥るのである。

完

イエスとユダ

藤原武夫

「神とは一体何だらうか」ユダはこゝから発足した。
「宇宙の生物と無生物とを創造し支配する唯一の物！」
ユダや教では斯ふ説いてゐる、さうしてイエスも斯ふ説いてゐる。だが果してさうであらうか、 ユダは其の説に反対であった
「宇宙は決して支配されてゐない、万象は勝手に動き廻ってゐる勝手に生れ死んでゐる 神！ そんなものは存在しない」
イエスの行ふ様々の奇蹟もアラビヤ人の手品としかユダの眼には映らなかった。そうしてさういふ幼稚な奇蹟に惑ひ果れ驚嘆し「イスラエルの救ひ主」だと立ち騒ぐ愚にもつかない狂信者や、そのイエスの奇蹟に頼り「神の国を建てやうとする愛国

狂がユダの眼には滑稽に見えた。
ガラリヤの湖水が眼の下に見える美しい小さな丘の上で又イエスが手品を使ひ五千人の信者を熱狂させその喝采の鳴り止まぬ中に一人姿を眩した時もユダは冷かに笑つてゐた、
そのイエスがカペナウムの村でかつて信者達に説いた時にはユダは本当に怒つてしまつた「お前達が俺を尋ねるのはパンを貰つた為だらうだがお前達よ其れは良くない朽ちる糧の為に働かずに永世の糧の為に働くがいい……神は今やお前達へ真のパンをお与へなされたこの俺こそ真のパンだ俺に来る者は餓えないだらう俺を信ずる者は渇かないだらう」
「法螺だ」とユダは思つた「予言者どころの騒ではない

彼奴はヒドイ利己主義だ　途方もない妄想狂だ　朽ちる糧の為に働かずに永遠の糧の為に働けと云ふ　これこそ妄想狂の白昼夢だ永遠とは一体何だらうか　生命あるものは皆死ぬ　永存するものは無生物だけだ「俺に来るものは餓ゑないだらう　俺を信ずる者は渇かないだらう」では　お前へ行かないものは餓ゑるといふことになるのだな　又お前を信じないものは渇くと云ふことになるのだな　彼奴は要するに大山師だ」　ユダがイエスを裏切ったのはかういふ考への相違からであった　　未完

◎　編輯室より

通信下さいました　熊谷、初谷、中川、山田、藤原、久田　諸氏に御礼申し上ます　不取敢　御挨拶まで　（奈良生）